

家計原論

篠田正作著

上下

78

202



篠田正作著

家計原論 貳冊

東京

中近堂藏版



家計原論序

近世不乏家計之書矣雖然或異邦俗之翻譯有據邦俗而但指示其方法而已未見推覈其原理之書焉古書曰本立而道生本不立則末不行縱令雖行僅僅止其局面之利害而已遂不可期大成有猶存一而亡百之恐抑家事經濟者整理資財之謂也節儉者節減冗費之謂也今夫認冗費者何以為基本裁制之稱冗費冗者無益之謂也必要之餘也其於有益無益之分界唯任各自之方寸選擇之則所甲者認而為有益乙者認而為無益所乙者認而

202

家計原論

家計原論

序

中近堂藏版

為有益亦甲者認而為無益然則其所謂益者如各自從其人而異名稱例有慈善者以其餘資惠與之乎窮人慈善者則固以之為有益而有遊蕩者反嗤笑之不惜演劇等之纏頭有不為無益之是非從人而異名稱耶此慈善者之所為彼遊蕩者之所為何以判決是非但公私之間耳慈善者出道德遊蕩者出名利本自異也一正也一不正也正者有益也不正者無益也判決正不正者在道理上也然則不明理則不能行節儉也誰曰節儉者道理外耶夫人不明理而欲為畜財動則陷吝嗇世上吝嗇人之過多

則為此耳且雖專熟于經濟術不知其原理則決不可達蓄財之目的也矣有猶存一而百也矣捨本而徒趨末也矣是以此書所要主原理而論辨焉如其詳細方法各就其書或問先輩識者反覆熟考而須以原理而採擇之聊陳述所見以為序

于時明治辛巳仲秋下澣識于東都淺草北松山街玉泉寺中樓上北窓之下

篠田秋野



家計原論目錄章 卷之六章 總論 飲食 衣服 住居 職業 經濟 實行 親睦

家計原論目錄章

卷之六章

- 第十章章 總論
- 第九章章 飲食
- 第八章章 衣服
- 第七章章 住居
- 第六章章 職業
- 第五章章 經濟
- 第四章章 實行
- 第三章章 親睦

第九章 分業

第十章 脩身

第十一章 養生

第十二章 教育

卷之下

第十三章 數理

第十四章 記簿

第十五章 文章

第十六章 割烹調理

第十七章 裁縫

第十八章 紡績機織

第十九章 洗濯

第二十章 家什

第二十一章 僕婢

第二十二章 交際

第二十三章 需用品買收

第二十四章 非常

第二十五章 音曲

第二十六章 愛國

家計原論目錄終

家計原論卷之上

第一章 總論

大和 篠田正作

古書ニ曰ク其本亂レテ末治マル者ハ否シ矣ト
 宜ハナル哉言乎凡ソ事ヲ成テサル者多クハ其本
 ヲ治メス徒ラニ末ノ著目スルヲ以テナリ之
 レヲ樹木ニ譬フレハ其根幹ヲ培養セス徒ラニ
 枝葉ニノミ心ヲ注クト何ソ異ナランヤ方今經
 濟ノ學盛ニ行ハル實ニ開明ノ柱礎ニシテ國
 家一日モ缺クヘカラサルノ一大要務ナリ國固

ヨリ此ニ勉メサルヘカラス家亦勉ムヘキノ要
 タリ國若シ此務ヲ忘ル、キハ漸ニ外債ヲ來シ
 終ヒニ償フ能ハサルノ域ニ陥リ國滅亡セサラ
 ント欲スト雖豈得ヘケンヤ家若シ此務ヲ忘ル
 、キハ日ヲ逐フテ負債積重シ益衰ヘ益微ニシ
 テ其天賦ノ幸福アリト雖享受スルヲ得ヘカラ
 ス遂ヒニ困苦ノ中ニ終ランノミ世上變死ヲ爲
 ス者多々アリ首ヲ縊ルアリ自刃スルアリ自銃
 スルアリ井ニ投スルアリ河ニ投スルアリ溝ニ
 投スルアリ麻酔劑ヲ服スルアリ劇毒藥ヲ服ス

ルアリ枚擧スルニ遑アラヌ新聞紙上常ニ閱ミ
 スル所言ハテ爲メニ潜然トシテ淚ヲ揮フノ下
 アリ豈又痛マシカラスヤ是レ其變死者ノ爲ス
 所或ヒハ醜行ヲ掩フヘカラサルニ起リ或ヒハ
 失望喪心シタルヨリ出ツル等之レアリト雖氏
 多クハ負債積重シ償フ能ハサルノ故ヲ以テ一
 時身ヲ措クニ處ナク世人ニ面ヲ對スルヲ耻ツ
 ルカ如キノ情ニ迫リ或ハ其貧甚シクシテ動モ
 スレハ惡心ヲ生シ或ハ詐偽ノ術ヲ逞クシ或ハ
 竊盜或ハ強盜至ラサル所ナク世ヲ潜ミ人ヲ害

シ其刑辟ノ到底免ル能ハサルヲ知り身心腦亂
シテ終ヒニ是ニ至ルナリ其原因タル他ナシ唯
一ノ經濟ヲ忘レタルニ是レ因ル耳顧ミサルヘ
ケンヤ古語ニ曰ク小人窮スレハ斯レ濫スト窮
困之レカ主ト爲リテ諸惡ヲ惹起スルナリ天ノ
作セル孽ハ猶ホ違ル可シ自ラ作セル孽ハ活ク
可カラス水火等ノ難ノ如キ期セスシテ來ルハ
是レ天ノ作セル孽ナリ平素通義ニ悖ラスシテ
世人ノ信用ヲ缺クナクシハ縱令ヒ現場他人
ノ救助ヲ得スト雖斷ヘス其經濟ノ法ヲ守ラハ

早晚必恢復ノ期アルヘキナリ然ルニ家事不整
頓ニシテ不經濟ナル自ラ作セルノ孽ナルヲ知
ルト雖一時情慾ノ私ニ蔽ハレ曾ツテ將來ヲ顧
ハス困窮隨ツテ非義ヲ企圖シ事失敗シテ其爲
ス所ヲ知ラサルハ是レ則チ自ラ作セル孽ナリ
到底免ルヘカラス其盜ヲ爲スカ如キハ其惡論
スルヲ俟タス然レ氏多クハ彼ノ不經濟ニ起因
スルナリ慎マサルヘケンヤ之レヲ想ヘハ爲メ
ニ身体粟立スルヲ覺フルカ如シ恐ルヘキハ不
經濟ナリ不經濟ハ禍ノ本ニシテ宛モ惡鬼妖魔

ノ如キ乎俗間貧神ナル語アリ實ニ不經濟ハ貧神ナラム務メテ之レヲ忌ムヘシ而シテ經濟ナルモノハ營ニ冗費ヲ省キ浪費セサラントノミヲ謂フニアラス國或ハ家ニ於テ貨財ニ關スル數件ノ調理ヲ總稱シタルモノナリ然リ而シテ經濟モ亦源アリ何ソヤ曰ク德行ナリ一家各其徳ナルモノヲ脩メスンハ馬ンゾ經濟ノ要ヲ知ランヤ又馬ンゾ其經濟ヲ行フヲ得ンヤ縱令ヒ一時之レヲ行フヲ得ルモ常々之レヲ保ツ能ハス其經濟ト認ムルモノ安ンソ知ラン不經濟ナ

クンホハ又其節儉ト認ムルモノ安ンソ知ラン吝嗇ナラズトハ是ヲ以テ須ラタ吝ト儉トノ區域ヲ知ルヘシ夫レ吝嗇ハ當サニ費スヘキノ貨財ヲシテ理ニ從ハズ強イテ己ニ附シ專ラ之レヲ貯蓄セントスルニアリ節儉然ラズ世上一般ノ務ハ分ニ應シテ之レヲ盡シ其當サニ費スヘキト當サニ費スヘカラサルト事ニ就キテ能ク之レヲ分別シ豫メ之レカ殘餘ノ地ヲ爲シ其殘餘ノ貨財ヲシテ時ニ臨ミ圖ラサルノ費額ニ充テント之レカ準備ニ注意スルニアリ吝儉固ヨ

リ其性質ヲ異ニスト雖但其貯畜ヲ專一ニスル
ト不虞ノ備ニ貯ハフルト畜財ハ同ク畜財ナリ
此一局面ノミヲ見ルキハ其形甚夕類似シテ同
性質ノ者ノ如ク頗ル見解ニ困ムナリ然レモ其
簡易ニシテ最モ見易キ限界アリ他ナシ要費ヲ
省クト冗費ヲ省クノ別ナリ其冗費ヲ省カン
ヲ欲セハ須ク經濟術ニ熟達スヘク尚ホ其源ナ
ル德義品行ニ注意シ之レヲ脩メスンハアラサ
ルナリ古來其德脩ラスシテ能ク經濟ヲ行ヒシ
者ハ未夕曾ツテ之レアラサルナリ世ノ諺ニ曰

ク他人ノ垢ハ其身ニ着カスト此レノ謂ヒナリ
經濟ハ術ナリト雖而カモ之レカ基本トナルモ
ノハ德行ナリ人々斯ニ務ムヘキナリ其源遠シ
トシテ之レヲ斷テ下流常ニ水絶ヘサルノ理由
アルナシ行潦ハ根源ナシ朝ニ滿チテ夕ニ流ル
徒ラニ貯畜ノ術ニノミ依賴シ其德ヲ脩メス一
時幾許ノ貯畜ヲ爲スモ是レ猶ホ源ノナキ行潦
ノ如ク太陽一夕ヒ照シテ其水乾涸シ復夕偶然
ノ雨ヲ俟ツカ如キナリ期シ難キトニアラスヤ
古語ニ曰ク原泉滾々トシテ晝夜ヲ舍メスト此

家語原論 卷十

九

呻吟語

語以テ証スヘシ嗚呼其源ノ徳アリ其流ノ術アラハ水ノ涸ル、ノ憂ナク河決ノ患モ亦ナカラシ乎末ヲ思ハ、必其本ニ勉ムヘシ然ラサレハ百ノ學術アリト雖遂ニ能ク其目的ヲ達スルモノハ鮮シ矣古書曰徳者本也財者末也宜ナル哉

第二章 飲食

人ノ世ニ生ル、ヤ必先ツ首トシテ飲食ヲ要ス飲食ハ身体ヲ養フノ具ニシテ必要ナル血液ヲ造成シ其体内血管中ヲ巡環シ体ヲシテ快意ニ動クヲ得セシメ以テ命脉ヲ繫ク所ノモノナ

リ赤子ノ産ル、ヤ直チニ乳汁ヲ要ス未タ飲ト食トヲ分チ用フル能ハス故ニ飲食ノ兼用品ヲ以テ之レカ養料ニ充ツルナリ其稍ヤ長スルニ當リテハ飲ト食トヲ分ツヲ知リ母ノ坐邊ニ蹲居メ之ヲ飲ミ之ヲ食スルヲ得其已テニ跪坐シ箸ヲ把ルノ年齢ニ至レハ自ラ飲食ヲ撰ミ漸々長スルニ隨ヒ愈撰ミテ愈精シク厚味ヲ欲シテ淡薄ヲ厭フ其少年ニ至リ壯年ニ至リ後獨立ノ時ニ至レハ之レヲ貪ルノ情益切ナリ要スル所身体ヲシテ快意ニ動クヲ得セシメ以テ命脉ヲ

繫ク所ノモノナルヲ知ラサルニアラスト雖奈
何セシ其情慾ニ蔽ハレ利害得失ニ注意セス貪
リテ身体ヲ害ヒ又顧ルノ心ナシ且ツ口實ヲ設
ケテ曰ク滋味ハ養分多ク身体ヲシテ健康ナラ
シムト夫ノ過キタルハ猶ホ及ハサルカ如キヲ
思考セス一時ノ嗜慾ニ心ヲ奪ハレ又後日ノ經
濟ヲ思ハス隨ツテ過飲過食之レカ基トナリテ
病根ヲ醸シ其休業ノ損害醫藥ノ價及ヒ診察料
ト嘗テテ定費ヲ超過セシ數件合スルノ失費ア
リ之レヲ計算スル氏ハ豈小少ノ違ヒナラシヤ

時トシテ暗ミ易キハ嗜慾ノ情ナリ古人曰ク食
色ハ性ナリ又曰ク飲食男女ハ人ノ大慾ナリト
古今人情皆然ルナリ此情甚タ制スヘカラサル
カ如シト雖務メテ制スルハ則チ德行ナリ德行
ナルキハ隨ツテ攝生ヲ重ンス攝生之ヲ重ンセ
ハ彼ノ數件重ナル不經濟ノ如キハ又アルト鮮
シ矣昔時波斯國ニ於テハ過度ニ飲食ナセシ者
ハ政府之レヲ罰セリト然レ氏人或ハ言ハン病
根ハ專ラ不養生ニ起因セス平素攝生セルノ人
ニシテ往々病ノ床ニ卧スアリ槩シテ論スヘカ

ラスト攝生モ亦種々ナリ豈飲食ノミニ止マラ
 ニヤ其遺傳病ニアラサルヨリハ皆不養生ニ起
 因スルナリ就中飲食物ノ不精良或ハ過度ヨリ
 生スルモノナリ縱令ヒ攝生之レヲ務メ而シテ
 病ヲ患フル氏所謂過誤失錯ナラハ如何セン是
 レ已カ智ノ及ハサルヲ悔ユルノミ彼ノ病ヲ釀
 スヲ知ルト雖其不養生ヲ竣メス緩慢以テ時日
 ヲ經過ニ所謂有心故造ノ者世上多ク見ル所ナ
 リ慎マサルヘケンヤ庶幾ハ其身体ヲ養フノ具
 ヲ以テ心ヲ苦シメ而シテ亦身ヲ苦ムル勿ン

第三章 衣服

既ニ飲食アリ身体ヲシテ快意ニ動カレノ以テ
 命脉ヲ繋クト雖將タ何ヲ以テ寒ヲ防キ暑ヲ被
 ハン是ニ於テ乎衣ヲ要ス衣ハ則チ体ヲ保護ス
 ルノ具ナリ赤子ノ産ル、ヤ其父母タルモノ先
 ツ其分娩ニ先チ胎兒ノ衣ヲ製ス是レ寒ヲ防キ
 暑ヲ被フカ爲ニシテ世ニ生ル、ヤ直チニ其体
 ヲシテ害ハサラシメンコトヲ欲シテナリ其稍ヤ
 長スルニ及ンテハ兼テ其形体ヲ裝飾スルノ具

ナルヲ知り他人ニ對シ鮮美ヲ競ハント欲スルノ情アリ東家ノ兒西隣ノ兒ノ已カ衣服ニ勝ルヲ見ハ兒ノ世事ヲ解セサル父母ノ貧富ハ措イテ問ハス謂ツテ曰ク兒モ亦西隣兒ノ如キ鮮衣ヲ裁セヨト是レ其鮮美ヲ競フノ情ナリ然レハ則チ衣服ハ容飾ヲ兼ネタルノ具ナリ素ト容飾具ニシテ兼テ身体保護ノ具トナサ、ルハ言ヲ俟タスシテ知ルベシ然ルニ其兒或ハ少年トナリ或ハ少女トナリ長シテ是ニ至レハ鮮美ヲ競フノ情益增長シテ遂ニ其本ヲ忘レ專ラ容飾ヲ

以テ主トスルモノ、如シ之レヲ男子ニシテハ其分ニ應シ飾ラサルヘカラスト雖務メテ其分ニ過クヘカラス凡ソ通常ノ人他ヲ見ルキハ他ノ人果シテ富裕ナルヤ否ヲ察セス其容飾具ノ美麗ト粗惡ヲ視テ以テ貴賤貧富ヲトスルモノナリ然レハ則チ衣服ハ其レ貴賤貧富ヲ示スノ標準ト云フヘキ乎服飾ノ具種々ヲ交ヘ之レヲ身体ニ着クルノ際其各等級ノ相稱ハサルハ甚夕醜キモノナリ假令ハ衣ハ上等ニ帶ハ下等ニ下駄ハ中等ト此クノ如ク相稱ハサルカ如シ服

飾品中一種ト雖其分ニ過キタル品類アラハ自
 ラ中下等ニ倣ハス多分ハ過分ノ品類ニ倣フモ
 ノナリ是レ人情ナリ如何トナレハ自尊ノ心ハ
 天性ナリ故ニ自ラ其貴賤貧富ノ標準タル衣服
 品位ノ粗ニ降ルヲ耻ツルノ情之レカ主トナリ
 知ラス識ラス過分ノ品類ニ倣フモノナリ啻ニ
 衣服ノ類ノミニアラス隨ツテ飲食什器家屋等
 ニモ及フヘシ察セザルヘケンヤ庶幾ハ其始ニ
 於テ戒慎セントヲ嘗ツテ人アリ一日途上ニ於
 テ上等ナル烟草袋ヲ拾ヘリ而シテ已レカ衣服ヲ

顧レハ殆ント褻褻ニ近シ謂ヘラク烟草袋我服
 飾ニ稱ハス速ニ恰當ナル衣服ヲ購求スヘシト
 而シテ價金ヲ得ルニ策ナシ遂ヒニ盜ヲ爲セシ
 カ罪惡直チニ發露シ法庭ニ送ラレ終ヒニ至當
 ノ刑罰ニ處セラレシト云フ是レ俗間ノ一話ニ
 シテ其愚比ヒナシト雖又此理ヲ証スルニ足ル
 乎而シテ人ニ浮沈アリ此理由ニ據ルキハ若シ
 不幸ニシテ資産ヲ減シ或ハ失フニ瀕スルキハ
 暫クモ猶豫緩慢スルナク其舊等級ノ衣服ヲ改
 メ速ニ新等級ノ地位ニ下リ衣服ヲ以テ体面ヲ

飾ル勿レ實カナクシテ体面ヲ飾ル所謂虚飾ナ
 リ縱令ヒ一時ハ維持スヘク凡到底長ク持ツ能
 ハス慎ンテ投機者流ノ擧ニ倣フ勿レ爲メニ世
 人ノ信用ヲ失ヒ後事ヲ爲スニ妨ケアリ早ク体
 面ヲ變フルノ勝レルニ如カス火ノ將サニ滅セ
 ントスルヤ一時火光ノ輝クカ如キ往々世上ニ
 見ル所ナリ後ニ反リテ嗤笑ヲ來ス察スヘキ
 ナラスヤ是亦經濟ノ變ニ處スルノ一法ナラム
 之レヲ婦女ニシテハ男子ニ比スレハ一層美麗
 ヲ競フノ情アリ婦女ハ固ヨリ脩飾セサルヘカ

ラスト雖是レ亦其分ニ應セサルヘカラズ然ル
 ヲ其分ヲ知ラス其資力ヲ計ラス徒ラニ容飾ノ
 一途ニ偏スルキハ往々貞操ヲ缺キ廉耻ノ心ヲ
 失フニ至ルヲアリ處女ハ父ノ保護ヲ受ケ妻女
 ハ夫ノ保護ヲ受ク而ルニ處女タリ妻女タルモ
 ノ之レヲ得ントスルノ慾念甚ク之レヲ購求
 スルノ資力ナクシテ強イテ之レヲ得ントス其
 價金何處ヨリ出ツルヤ之レヲ處女ニシテハ一
 片ノ慾念廉耻ノ心ニ克チ往々不義ニ陥リ或ヒ
 ハ人ノ妾トナリ或ヒハ醜業ヲ耻チサルニ至リ

多クハ生涯玩弄物ト爲リテ畢ル何ソ經濟ヲ論
 スルヲ俟タンヤ之レヲ妻女ニシテハ此慾念愈
 甚シキハ亦分ヲ思ハス資力ヲ計ラス其失望
 ノ甚シキヨリ遂ヒニ夫ヲ無力視シ甚シキハ侮
 辱スルニ至ル是ニ於テ乎夫タルモノ忍耐セシ
 トスルモ能ハス亦遂ヒニ離別シテ顧ミサルニ
 至ル往々世上ニ見ル處ナリ戒慎セサルヘケン
 ヤ男女共ニ守ルヘキハ衣服ノ制限ナリ資産ニ
 應ジテ裁スヘシ庶幾ハ其身体ヲ保護スルノ具
 ヲ以テ心ヲ苦メ而シテ亦其身ヲ苦ムル勿ン

第四章 住居
 衣食既ニ足ル然レモ雨露ヲ凌クヲ奈何セン

是ニ於テ乎住ヲ要ス住ハ則チ家屋什器ノ總稱
 ナリ住中家屋最モ其重キニ居リ什器ハ之レニ
 附属セルモノナリ家屋ハ主トシテ雨露ヲ凌キ
 身体ヲ保護スルノ具ナリ啻ニ觀ルノ美ヲ爲
 スノミニアラス故ニ其觀美ヲ爲サンヨリハ寧
 ロ其職業ニ恰當ナル地位或ハ間取等ノ便宜ヲ
 計リ或ハ空氣流通其當ヲ得タルカ如キ養生点

ニ注意スルヲ肝要トス徒ラニ他人ニ對シ誇示
 センカ爲人少ニシテ大家屋ニ住スルモノアリ
 寺院或ヒハ舊來住居ノ家屋ニシテ他ニ移リ肯
 ンセサル事情アル者ハ可ナリト雖更ニ移ルハ
 甚タ不經濟ナリ特ニ誇示センカ爲ニスルハ甚
 タ可ナラス其大ヲ誇示スルニ意アルモノハ曾
 ツテ大屋ニ住マサルモノナリ故ニ之ヲ榮譽ト
 シ意斯ニ趣クナリ而シテ之レヲ榮譽トスルキ
 ハ凡ヘテ交際上ニモ亦豪華ヲ競ヒ其日常ノ失
 費タル大ニ定額ヲ増スモノナリ豫メ後日ノ計

ヲ爲スヘシ凡ソ住處ハ其職業等ノ便宜ニヨリ
 一定ノ地ヲ要セサルヨリハ可成的火難水難等
 ノ危険ナキ地ヲ撰ムヘシ其身体ヲ保護スルノ
 家屋ヲ以テ反リテ身体ヲ害フノ危殆ニ臨ム勿
 レ

第五章 職業

既テニ衣食住ノ三物ヲ要ス三物各價值アリ價
 ヲ償フニ足ルノ資財ナカルヘカラス而シテ資
 財何處ヨリ出ツル必ヤ精神ヲ勞シ身体ヲ役シ
 其報酬トシテ貨財ヲ得以テ資財ニ充ツルナリ

之レヲ生活資金ト謂ハン乎其生活資金ヲ得ル
ノ事業之レヲ稱シテ職業ト云フ人ノ職業ヲ求
ムルヤ官ト曰ヒ農ト曰ヒ工ト曰ヒ商ト曰ヒ其
中又種々事ヲ執ルニ異ナルアリ業ヲ執ル者其
一種毎ニ就キ其理ヲ窮メ其術ニ巧ミナラサル
ハカラス是ニ於テ乎智ヲ要ス然レモ智ハ是レ
衣食住ノ三物ノ如ク自己体外ノモノニアラス
天ノ民ヲ生スルヤ既テニ與フルニ智ヲ以テセ
サルナク固ヨリ其身ニ有セルモノナリ取レハ
則チ之レヲ存シ捨ツレハ則チ之レヲ失フ故ニ

人タルモノ幼ニシテハ其父母ノ指揮ニ隨ヒ必
其教育ヲ受クルノ務ヲ疎カニスルナク唯々ト
シテ之レニ従事シ孜々トシテ勉勵シ是レ日モ
足ラストセヨ今年學ハスシテ來年アリト思ヒ
遲緩躊躇シテ後ノ悔ヒヲ取ル勿レ遂ヒニ臍ヲ
啜ムモ及ハサルヘシ此間學フ所子女ヲ論セス
一般普通ノ小學ナリ人間ノ務ハ種々アリ必數
事ヲ知ラサルヘカラス而シテ數事ニ通達スル
ハ甚タ容易ナラサルモノナリ然レモ小學ニ於
テ數事ヲ教授シ強ヒテ悉ク皆生涯中各專門ニ

通達セヨト期シタルニアラス種々陳列セシ學科ハ官トナク農トナク工トナク商トナク何職業ノ者ニテモ必知ラサルヘカラサルノ學科ニシテ世ニ處シ事ニ接スルノ心得ナリ之レヲ學フト學ハサルトニ於テハ其職業上ノ理ヲ窮メ其術ニ巧ミナラントスルニ際シ甚タ損益ノ生スルモノナリ此故ニ官之レヲ獎勵シテ學ニ就カシムルナリ猶ホ今日ノ現場ニ於テハ其之レヲ學フト學ハサルトニ於テ格別ノ差異損益ハ無カ如シト雖現今ノ普通小學卒業ノ少年ニシ

テ異日長シテ一家ノ主宰トナルノ時ハ其無教
育ノ者ニ於テハ殊別ノ差異ヲ見ルアルヘシ夫
ノ專門學ノ修業ノ如キハ一般ニ期スヘカラサ
ルナリ此普通小學科ヲ學ヒシ後少年各其恰當
ナル職業ヲ撰ムニ當リ所謂天賦固有ノ智ヲ以
テ已期シテ熟達スヘシ已レカ性質ニ適ヘリ必目
的ヲ達スルヲ得ヘシト認ムル業ニ精神ヲ鍛鍊
シ常々執リテ放タサルベシ抑普通學科ニ得タ
ル所ハ其各ノ職業ノ理ヲ窮メ其術ニ巧ミナラ
ントスル即チ智ノ補助ニシテ猶ホ器械ノ如キ

モノナリ世ニ智識ヲ得ルノ語アレモ是レ全ク
 他ヨリ得ルニアラス但現場ノ形跡ヲ言ヒタル
 モノニシテ其實智ハ已ニ固有ノモノナリ其智
 識ヲ得ルト云フハ偏ヘニ術ヲ以テ其固有ノ智
 ヲ抽出スルヲ謂フナリ故ニ器械ヲ以テ体トナ
 サス之レヲ用ニ使役シ固有ノ智ヲ以テ体トナ
 シ少年ノ時ニ於テ主一無適ニ精神ヲ鎮定シ務
 メテ職業ヲ擇ミ取ルヘシ然ラサレハ生涯ノ目
 途ヲ誤ルモノナリ夫ノ中年以後ニシテ其職ヲ
 轉シ身ヲ立テ家ヲ起スモノハ常人ニアラス其

實力ナクシハ徒ラニ期スヘカラス而シテ其職
 業ヲ擇ムノ際可成的祖先以來ノ職業ヲ繼クヲ
 可トス而レモ時ニ應シテ改良ヲ加フヘシ凡ソ
 習慣ナキ職業ニ轉スルキハ其際多ク損耗アル
 モノナリ察スヘキヲナラスヤ

第六章 經濟

當ニ生活資金ヲ得ルノ術即チ職業ヲ求ムルノ
 智ノミナラス又費シテ後豫備ノ資財ヲ貯蓄ス
 ルノ智ナカルヘカラス故ニ亦此智術ヲ要ス即
 チ一家經濟ノ術ナリ既ニ職業ヲ求メ其理ニ通

シ且ツ巧ミニシテ世人ノ信用ヲ得其業日ヲ逐
フテ盛大ニ至リ世ニ行ハルト雖此利得ノ貨財
ヲシテ紛亂渙散セシメハ如何シ斯クノ如クナ
ルキハ漸ヲ逐フテ資本ヲ減シ曩キノ盛大ナル
モ隨ツテ衰へ且ツ世人ノ信用ヲ薄クシ甚タ困
苦ヲ來スナルヘシ加之ナラス其職業ノ如何ナ
ルヲ論セス業ニ盛衰アリ天ノ將サニ陰雨セサ
ルニ及ンテ牖戸ヲ綢繆セサルヘカラス是レ經
濟術ノナカルヘカラサル所以ナリ且ツ人不虞
ノ變アリ火難アリ水難アリ盜難アリ疾病アリ

將タ業務ノ閑暇アリ自ラ孜々トシテ業務ニ勤
勉スト雖是レ一般ニ免ル能ハサルノ一タリ之
レカ爲ニシテ豫メ備フル所ナカルヘカラス其
入ルヲ計リテ出ツルヲ制スルハ是レ經濟ノ要
タリ務メサルヘケンヤ爰ニ人アリ其人終日營
々トシテ其事業ニ奔走苦慮シ朝ニハ霜ヲ履ン
テ出テ夕ニハ星ヲ戴イテ家ニ歸ヘル其勤勉實
ニ容易ナラス而シテ幾許ノ貨財ヲ得テ來ル然
ルニ其妻タルヤ經濟ノ術ニ拙ク或ハ財ヲ用フ
ルヤ一邊ニ偏シ或ハ一ヲ吝ミテ百ヲ失シ或ハ

家語原論

卷上

中近堂藏

冗費ヲ省クヲ知ラス、或ハ浪費ヲ顧ミス、其夫ノ
 營々セシ貨財ハ費シテ尚ホ足ラス、遂ヒニ其夫
 ヲシテ氣力ヲ挫キ、其精神ヲシテ攪亂セシメ、轉
 シテ自暴自棄ノ心ヲ生シ、隨ツテ夫妻反目日ヲ
 接シ、夫婦間ノ愛情日ヲ逐フテ薄ク止ムヲ得ス
 シテ其婦ヲ離別シ、男女室ニ居ルク大倫ヲ滅シ、
 夫婦終ヒニ離散シテ止ム、豈歎クヘキニアラス
 ヤ、人ノ是ニ至ル原因多クハ不經濟ニ之レ生ス
 ルナリ、戒慎セサルハケンヤ、勤勉セサルハケン
 ヤ、一家ニ妻タルモノ、造次顛沛ニモ忌ルヘカラ

サルハ此一大要務ナリ、其夫タルモノモ亦其孱
 弱ナル妻女ヲ愛シ、務メテ自暴自棄ノ心ヲ生セ
 シムル勿レ、是レ一家經濟ノ一大基本ナリ、

第七章 實行

既テ衣食住ノ需アリ、之レヲ得ルノ智術及セ
 畜財ノ要ヲ知ル、而シテ知ハ易ク行ハ難シ、其智
 アリト雖行ハサレハ何ニカセン、之レヲ行フノ
 始甚タ難キヲ覺フト雖行フテ常トナリ、其習慣
 ノ極ニ至レハ、故ヲニカラ用フルノ意ナシ、古人
 曰ハスヤカラ用フルノ久クシテ、一旦豁然トシ

家計原論 卷上 中近堂 二五

ステ貫通スト此語以テ証スヘシ之レヲ實行ノ要トス

第八章 親睦

上章既テニ實行ノ要ヲ陳フ而シテ實行首トシテ親睦ヲ要ス即チ一家親睦是レナリ凡ク一家ニ主トシテ職業ヲ為スモノハ終日外事ニ身心ヲ勞ス其外人應接中ニハ心ニ快ラサルノトモアルヘシ而ルモ之レヲ忍耐ス是レ職業上止ムヲ得スシテ耐ヘ忍ヘルナリ故ニ夫タルモノ閑散ノ時ハ妻タルモノハ務メテ之レヲ慰ムベシ

殊ニ其夫勤務ノ身ニシテ終日外ニ在リ或ハ居職業ノ者ト雖他所ヨリ家ニ歸リ來ルキハ心ヲ盡シテ之レヲ待遇シ就中偶々失望等ノトアルハ一層務メテ慰安スヘシ此際夫ノ喜悅凡ソ如何ンソヤ之レニ因リテ其氣力ヲ挫カス更ニ英氣ヲ養成シ復ヒ事業ヲ為スニ勇ミ隨ツテ其妻ヲ愛スルノ真情增益シ夫義ニ妻貞ニ一家期セスシテ幸福ヲ得シ是レ人間ノ一大快樂ナリ何事力之レニ如カン諺ニ曰ク一家親睦ハ福神ノ祭祀ト至レル哉言乎然レト人或ハ言ハシ是

レ偏へニ一家ノ妻ヲ責メテ其夫ノ務ニ及ハス
 甚タ不公平ナラスヤ妻モ亦事務多シ豈一々ニ
 シテ慰ムルニ違アラシヤト是レ其事跡ヲ論シ
 テ其真情ニ及ハサルナリ妻タルモノ、職トル
 所多事ナラストセス故ニ一々ニシテ言語ヲ費
 ス能ハサルモ和顔婉容以テ之レヲ満足セシム
 へシ苟クモ真情ナクシテ啻ニ口舌ノミヲ鼓ス
 ルヲ言フニアラス真情ノ此ニ至ルヲ言フナリ
 又妻ノ務ヲ責メテ夫ノ務ニ及ハサルハ強チニ
 一方ニ偏スルノ謂ヒニアラス只其先後ノ序ア

ルノ謂ヒナリ妻先ツ貞ヲ以テシテ而シテ後夫
 義ヲ以テ之レニ應スルハ順ナリ而ルヲ夫先ツ
 義ヲ以テシ妻其義ニ報ユルヲ旨趣トシ受ケテ
 而シテ後貞ヲ以テ之レニ應スルハ抑逆ナリ夫
 婦間ノ交際ニ於テ須ラク察スヘキハ是レ此先
 後順逆ナリ妻先務ヲ施スヘシ夫ハ施ヲ受クヘ
 シ今若シ然ラスシテ互ヒニ先後ヲ争ヒ固ク執
 リテ相下ラサレハ尋イテ夫妻反目ノ憂アラシ
 是レ不幸福ノ至リナラスヤ人ノ妻タルモノ先
 ツ其夫ノ施スヲ望マスシテ自ラ先ツ貞ヲ盡シ

事フルハ其實夫ノ爲ノミヲ圖ルニアラス即チ
 已カ爲ヲ圖ルナリ妻ハ夫ニ属セルモノナリ然
 レハ其夫ノ意ニ背キ情誼相離ル、片ハ其極離
 別ヲ爲スニ至ルハ是レ必然ノ勢ナリ離別ノ後
 再嫁シテ縱令ヒ前キニ勝サルノ幸福ヲ得ルモ
 再嫁ハ是レ全キ公道ニアラス且ツ婦人ハ男子
 ト異ニシテ獨立ヲ得ヘキモノニアラサレハ到
 底其夫タルモノニ對シ施ヲ受クルノ先後ヲ爭
 フ能ハサルナリ妻タルモノ常ニ此ニ省慮シ畢
 生ノ幸福ヲ保ツヘシ若シ此心アラス夫ニ對シ

目ヲ反シ或ハ言ヲ返ス等之レアルハ即チ不幸
 福ノ原因ナリ柔順~~夫~~婦女ノ至寶ナリ常ニ此理
 ヲ忘~~レ~~サランコトヲ要ス挽今男女同權ノ説アリ
 其要トスル所男ニシテ愚ナルアリ女ニシテ智
 ナルアリ將タ男ニシテ不肖ナルアリ女ニシテ
 賢ナルアリ然レハ彼レ尊ク此レ卑キノ差異ア
 ルナシ男ニシテ權利アラハ女モ亦同等ノ權利
 アルノ説ナリ今一家同居ノ夫妻ヲ以テ之レヲ
 論スルキハ縱令ヒ其實同權利アルモ其日常ノ
 職務ニ於テハ則チ異ナリ職務上ノ比較ヲ以テ

之レヲ論スルハ夫ニ一步ヲ譲ラサルヲ得ス
 夫ハ一家ノ主ナレハナリ若シ同權利ノ故ヲ以
 テ職務ヲ同クナスハ必一家二主トナル其同
 權ノ主宰二人之レアルハ事トシテ統一スル
 一ナシ紊乱之レニ由リテ起ラン豈危殆ナルコ
 ニアラスヤ一家必一主ヲ理トス古人曰ク天ニ
 二日ナク土ニ二王ナシト此語以テ証スヘシ若
 シ夫妻其職務ヲシテ之レヲ變換セシムレハ其
 地位顛倒シテ夫ハ妻ニ附属シ妻ハ夫ヲ以テ附
 属者ト爲サハルヘカラス然ルニ孱弱ナル婦女

ニシテ外事ノ劇務ヲ職リ剛強ナル男子ニシテ
 内事ノ細務ヲ職サトテハ誰カ之レヲ稱シテ理
 トナサンヤ故ニ妻タルモノハ必夫ニ属スルモ
 ノナリ己附属者タルノ心常ニ存シ一ニ夫ニ依
 賴スルハ身ノ幸福ト云フヘキナリ夫モ亦其妻
 ニ對シ能ク之レヲ待遇シ夫ノ己カ欲セサル所
 ハ人ニ施ス勿レノ語ヲ以テ之レヲ實地ニ行フ
 ヘシ是レ一家ノ主婦ヲシテ經濟術ニ心ヲ用ヒ
 シムルノ本源ナリ察セサルヘケンヤ

第九章 分業

夫妻既テニ職務ヲ異ニス然レ氏夫ハ外事ヲ務
 ムルニ偏シ専ラ内事ニ關係セスト言フニアラ
 ス妻モ亦内事ヲ務ムルニ偏シ専ラ外事ニ關係
 ナシト言フニアラス各其主トスル處ヲ以テ内
 外務ヲ異ニスルノミ夫ハ外事ニ主トナリ妻ハ
 其輔トナリ妻ハ内事ニ主トナリ夫ハ之レカ輔
 トナリ而シテ事整頓スルヲ謂フナリ若シ然ラ
 スレテ内外事ヲ共ニシ主輔ノ別ナクンハ夫ハ
 内事ノ細件ニ區々トシ外事ノ大ナルヲ忽セニ
 シ妻モ亦外事ノ大ニ當リ日々ノ細事ヲ忽セニ

セハ其家遂ヒニ整頓スルナク夫ハ無カト誹ラ
 レ妻ハ牝雞晨スルノ謗リヲ免レサラン或ハ又
 夫ハ内事ニ輔トナラス妻亦外事ニ輔トナラス
 此クノ如クニシテ一朝變故アラハ奈何セン假
 令ハ其妻暴死シテ一家ノ經濟ニ主タルモノナ
 シ此際夫タルモノ平常ノ注意ナカルヘカラス
 而シテ又夫暴死スレハ妻タルモノ一層平常ノ
 注意ヲ要ス如何トナレハ其夫在世中外事ノ貸
 借上ニ於テ如何ナル錯綜アルヤヲ圖ラス豫メ
 記憶ナクンハアラサルナリ或ハ其職業ニヨリ

テハ婦女ニシテ爲スヲ得ヘキノ職業アリ其夫
 在世中内事ノ傍ラ其業ノ術ヲ諳ンシアラハ亦
 安穩ニアラスヤ是ヲ以テ各其一方ニ偏セス職
 ヲ分チテ而シテ後互ヒニ主トナリ輔トナリ以
 テ一家ヲ整治スヘシ其業ヲ分タント欲セハ各
 學フ所ナカルヘカラス此書要スル所家計ヲ主
 トシテ論スルナレハ即チ一家主婦ノ務ナリ故
 ヲ以テ夫ノ學ハ姑ク置キ主婦タルモノ、學科
 ニ就キ漸次學術ノ要ヲ説カン

第十章

修身

修身學ハ善ヲ勸メ惡ヲ懲ラスヲ旨赴トス己道
 ヲ盡シテ人ヲ害ハサルヲ着眼ト為スヘシ夫レ
 婦女ハ男子ニ附属セルモノナリ妻ハ夫ノ輔助
 タリ夫タルモノ、權威ニ勝サルヲ決シテ之レ
 ナキモノナリ畢生ノ苦樂其夫ト偕ニシテ而シ
 テ夫ノ苦樂ニ從フヘキナリ此故ニ夫ニ對シ不
 順ナルハ猶ホ其自己ノ身ニ對シ不順ナルカ如
 シ此クノ如クナルキハ身ノ幸福ヲ期スルノ時
 敢ヘテ無カルヘキナリ努メテ柔順ノ婦徳ナル
 ヲ忘ルヘカラス其舅姑ニ事ユルヲ首トシ常

ニ夫ニ柔順ニシテ或ハ慰安シ又時アリテハ其
 機會ヲ見温容和顔ニ徐々トシテ其及ハサル所
 ヲ諫メ其心ヲシテ己カ心ト為サス常ニ夫ノ心
 ヲ以テ己カ心トナシ其敬スル所ヲ敬シ其愛ス
 ル所ヲ愛シ其親ム所ヲ親ミ聊モ私見ヲ挾ム勿
 レ其舅姑ヲ敬愛スルハ即チ其夫之レヲ敬愛ス
 ルヲ以テ之レヲ己カ心ト為スナリ施イテ夫ノ
 兄弟姉妹ニ及ホシ之レヲ愛シ尚ホ且ツ夫ノ叔
 姪等ノ親族ニ及ホシ之レヲ親ムヘシ是レ其夫
 ノ愛スル所ヲ愛シ親ム所ヲ親ムナリ然レハ則

チ夫タルモノモ亦己カ心ヲ心トシ己カ父母兄
 弟姉妹及ヒ叔姪等ノ親族ニ對シ且ツ敬シ且ツ
 愛シ且ツ親ムニ至ルヘシ是レ人情ノ常ナリ必
 一方ニ偏セサルモノナリ獨リ妻タルモノ、ミ
 心ヲ盡シ夫タルモノ心ヲ盡サ、ルモ可ナリト
 言フニアラス但其先後ノ順序ヲ論スルナリ婦
 ノ一類ハ外戚トシテ夫ノ一族ニ一步ヲ讓ルモ
 ノナリ故ニ婦タルモノハ先ツ其施ヲ求メスシ
 テ自ラ先チテ盡スアルノミ必甲ニ益シテ乙ニ
 益セサルノ謂ヒニアラサルナリ世ノ婦女タル

モノ此理ヲ知ラス往々道ニ反シテ身ノ不幸福
 ヲ招クナリ豈歎スヘキニアラスヤ或ハ其夫ヲ
 責メテ曰ハン舅姑ヲ敬愛シ兄弟姉妹ヲ愛シ叔
 姪等ノ親族ヲ親ミ務ムル所ハ必務ムヘシ將夕
 其心ヲ以テ己^レカ心^レ氏爲スヘシ然レ氏夫モ亦已
 カ父母兄弟姉妹及ヒ親族ニ對シ必之レニ報ユ
 ル所アルヘシト此クノ如ク恰モ貸與ノ貨財ニ
 証書ヲ交換スルカ如キノ誓言ヲ求ムルノ言ア
 ラハ世人稱シテ至當ノ言ト爲スヘキ乎理ハ即
 チ然リ然レ氏嫁娶ノ初ニ當リ此際言フヘキ

ニアラス時ヲ以テ論スレハ此言甚夕非ナラン
 或ハ其家財ヲ以テ其夫ノ許可ヲ得ス隱然實家
 ニ遺ルノ婦女アリ是レ其身ヲ削ルト何ノ異ナ
 ラン或ハ故ラニ記薄ノ務ヲ怠リ週末或ハ月末
 ニ至リ精算ノ時ニ際シ其夫之レニ喙ヲ容ル、
 其ハ甚夕不順ニシテ反リテ繁劇ヲ以テ口實ト
 爲シ將來記薄ヲ廢スルヲ主張スルノ妻女アリ
 豈家計ヲ思ハサルノ甚夕ニキニアラスヤ或ハ
 其子女ヲ教育スルニ際シ其夫ノ意見ヲ拒ミ遂
 ヒニ子女ヲシテ懶惰ニ陥ラシメ或ハ細事ニ執

家言原論
 卷上

三十一

中近堂藏

シテ時ヲ移シ反リテ要件ヲ顧ミサルアリ夫之
 レニ注意スルモ敢ヘテ其言ヲ用ヒス一途ニ我
 意ヲ達セントス此クノ如キ婦道ニ背ク種々ア
 リト雖是レ皆其始ヨリ之レヲ期スルニアラス
 其先ツ施ヲ受ケントスルノ情慾日々增長シ常
 ニ其先後ヲ争ヒ互ヒニ執リテ相下ラス多クハ
 此ニ原因ヲ爲スナリ古語ニ曰ク毫厘ノ差ヒ千
 里ヲ誤ルト其和_ト不和ノ間誠ニ毫末ニシテ其間
 髮ヲ容レサルナリ古語又曰ク霜ヲ履ンテ堅冰
 至ルト恐懼セサルヘケンヤ修身學ハ此クノ如

キヲ誠ムルノ學科ナリ勉メテ學ハサルヘカラ
 ス凡ソ男子ノ氣象ハ剛強ナルモノナリ故ニ婦
 女ノ柔順ナル氣象ヲ以テ能ク之レヲ節制シ動
 モスレハ剛強ニ失シ易キノ氣象ヲシテ適度ニ
 之レヲ和カシメ其男子ニ必用ナル英氣ヲ維持
 スルモノナレハ努メテ柔順ニ接セサルヘカラ
 ス然レハ則チ婦女修身ノ要ハ畢竟夫ニ對シ柔
 順ニ夫ノ心ヲ以テ己_レカ心ト爲スニアリ猶ホ孝
 子タルモノ、父母ノ心ヲ以テ己_レカ心ト爲スカ
 如シ女ニシテ柔順ノ徳ナクハ將タ何ヲ力取

家言原論
 卷上

三十一

中近堂藏

ラン牝雞ノ晨スルハ是レ家ノ索タリ慎マサル
ヘカラス脩身學ハ此要点ヲ説キタルモノナリ
首トシテ學ハサルヘカラサルハ此學科ナリ

第十一章 養生

養生學ハ身体ヲシテ健康ナラシメ病源ヲ醸サ
、ランヲ趣旨トス平常衣食住ニ於テ身ニ害ス
ヘキモノヲ去リ且ツ適度ヲ誤ル勿ラン、ヲ着
眼トス之レヲ衣服ニシテハ染料ノ不良ナルヨ
リ身体ヲ害スル、アリ或ハ着色ノモノヲシテ
膚ニ接セシメサル等ノ注意アリ或ハ其着用ノ

時ニ當リ寒暖ノ度ヲ違ヘ邪氣ヲ含ムノ恐レア
リ之レヲ飲食ニシテハ是レ亦糕餅等ノ着色ノ
良カラサルアリ或ハ何種ヲ論セス酸敗セルア
リ肉ノ敗レタルアリ飯ノ鍋セルアリ色ノ惡キ
アリ臭ノ惡キアリ飪ヲ失ヘルアリ時ナラサル
アリ其他日々同種ノ食物ヲ用フルハ健康ヲ害
スルノ説アリ食物中ニハ線緯質蛋白質澱粉質
ノ三質アリ各一邊ニ偏スルハ健康ニ害アリ
種々ノ食品各同一ノ成分ニアラス各種殊異ナ
リ是ヲ以テ日々其品種ヲ變換シ廻歸シテ用ユ

家計原論 卷上 三十二 中近堂

ルヲ可トス又或ハ言ハン奢侈ニ流ルト然レ氏
 品種中必上中下ノ品等アリ其活計ノ等級ニヨ
 リ自ラ折衷スルヲアルヘシ之レヲ住居ノ家屋
 ニシテハ濕地ノ人ヲ害スルアリ空氣ノ不流通
 アリ光線ノ不適アリ飲水ノ不良アリ一々注意
 セサルヘカラス殊ニ兩便所ノ如キ夏日温氣甚
 タシキニ至リ液類總ヘテ蒸發シ其分子擴散ス
 ルノ時ニ當リテハ頗ル之レニ注意スヘキナリ
 之レカ注意ヲ怠ルキハ爲メニ病源ヲ醸シ殊ニ
 虎列拉病ノ如キ傳染病ノ行ハル時ニハ此糞

尿ノ分子之レカ媒ヲ爲シ大ニ傳染力ヲシテ逞
 セシムルノ恐レアリ石炭酸ノ如キ硫酸鐵ノ如
 キ之レヲ防クノ具アリト雖居常清潔ナラシム
 ルニ如カス斯カル危険ヲ未然ニ防カントスル
 ノ養生學ナレハ一家ニ主婦タル者必學ハサル
 ヘカラサルノ學科タリ是レ經濟ノ一大着眼ナ
 リ何トナレハ平常如何ニ冗費ヲ省キ浪費ヲ慎
 ムト雖一朝疾病ニ罹ルアラハ其業固ヨリ務ム
 ルヲ得ス連日休業或ハ看病ニ身ヲ委ネ醫藥ノ
 價及ヒ診察料ヲ費サ、ルヲ得ス其他平愈ヲ祈

ルノ心切ニシテ冗費ヲ省キ浪費ヲ顧ルニ違ア
 ラス此際憂慮措ク能ハスレテ何ゾ經濟ヲ之レ
 思ハンヤ然レハ則チ甚シキ不經濟ナラヌヤ故
 ニ常々之レヲ恐レ必其疾病ノ本源ヲ釀スナク
 努メテ之レニ注意スルハ頗ル經濟ノ要本ヲ得
 タリト言フヘシ之レヲ恐ル、實ニ戰々兢々ト
 シテ深淵ニ臨ムカ如ク薄氷ヲ履ムカ如キノ思
 アルヘシ而シテ之レヲ免ル、ノ理ト術トヲ知
 ルハ則チ養生學ニアルナリ

第十二章 教育

教育學ハ人ヲシテ其日常必須ノ事ヲ知ラシメ
 且ツ身ヲ脩メ業ニ就キ即チ家ヲ齊フルノ要ヲ
 知ラシムルニアリ故ニ人ノ父母タル者或ハ父
 母ニ代ルノ兄タリ姉タル者子女弟妹ニ對シ當
 サニ心ヲ用フヘキノ要務タリ而シテ母タルモ
 ノハ常々子女ニ接セルモノナリ故ニ主トシテ
 其教育ノ責ニ任スヘシ西人曰ク母ノ膝ハ教ヘ
 ノ机案ト至レル哉言乎古昔胎中ノ教アリ方今
 泰西亦胎ノ教アリ共ニ小學及ヒ教導說ニ見ヘ
 タリ然レハ則チ人ノ母タルモノ既テニ胎中ニ

於テ教育ナスノ務アルナリ而ルヲ况ンヤ分婉
 ノ後之レカ教育ヲ以テ忽セニスルノ理アラ
 ヤ其子女ヲシテ玉ト爲サント欲セハ須ラク其
 身ヲ以テ玉ト爲スヘシ嬰兒未タ言ヲ發セス未
 タ匍匐ヤス未タ襁褓ノ中ニアリト雖其感覺ハ
 既テニ穎敏ニシテ常ニ言語動作ヲ母親ニ則ラ
 ント欲スルモノナリ故ニ知ラス識ラス其母親
 ノ性質ヲ寫ツスモノナリ兒ハ恰モ鏡面ノ如ク
 其身ハ恰モ形体ノ如シ其身圓ナレハ鏡面圓ヲ
 映シ其身方ナレハ鏡面方ヲ映ス兒ノ教育ハ其

レ其身ノ言行ヲ慎ミ兒ヲシテ之レニ則ラシム
 ルニアル乎其稍ヤ長スルニ及ヒテハ智ノ教心
 ノ教体ノ教ノ三教ナカルヘカラス本邦從前ノ
 弊習トシテ幼兒ノ惡戲ヲ止メントシテ或ハ狐
 狸ノ來ルヲ言ヒ或ハ怪物ノ來ルヲ言ヒ或ハ亡
 靈ノ來ルヲ言ヒ兒ノ畏レテ惡戲ヲ止ムルノ術
 トス思ハサルノ甚タシキナリ之レヲ行フ母タ
 ルモノ之レヲ以テ方便ノ術ヲ得タルモノト思
 ハン又繁忙ノ際止ムヲ得サルニ出ツルナラン
 然レ氏是レ甚タ先途ニ害ヲ遺コス者ナリ兒カ

將來ノ幸福ヲ思ハ、慎ンテ之レヲ爲サ、レ何
 トナレハ其兒屢畏レヲ懷キテ其妖怪ヲ想像ス
 ルノ極遂ヒニ之レカ心經病ノ基トナリ成長ノ
 後發スルコトアリ慎ムヘキコトナラスヤ且ツ所謂
 三教ヲ以テ之レヲ論スルハ無誓ノ言ハ智教
 ニ害アリ虚言ヲ用フルハ心教ニ害アリ病源ヲ
 醸スハ体教ニ害アリ少シク省ミサルヘカラス
 智ノ教ハ知識ナリ心ノ教ハ道德ナリ体ノ教ハ
 養生ナリ三教立キテ學成ルナリ其中一モ缺ク
 ルアラハ全ク成リシト言フヘカラス人ノ母夕

ルモノ能ク此理ヲ察スヘキナリ方今大都ニシ
 テハ幼稚園ノ設ケアリ兒ヲシテ善良ノ習慣ヲ
 得セシメ且ツ學ヒノ緒ニ就カシムルナリ教育
 モ亦種々ナラスヤ既テニ滿六年ノ齡ニ至ラハ
 必小學ニ就カシムヘキナリ普通小學ノ益タル
 上章既テニ説ク所ナリ必學フヘキノ學科ナリ
 子女ノ教育ヲ怠ルモノハ全ク親ノ務ヲ爲シタ
 リト言フヘカラス普魯士等ノ國ニ於テハ政府
 強迫ノ法ヲ設ケ其子女ノ教育ヲ怠ルノ親アラ
 ハ官之レヲ責罰スト云フ理當サニ然ルヘキナ

家言原論 卷上 三六 中道堂

リ素ト教育ハ父母ノ任ナリ然レ氏父タルモノ
 ハ日々職業ニ務メ終日營々トシテ外事ニ奔走
 スレハ子女ヲ教育スルニ遑アラヌ母タルモノ
 亦日々家計ノ務アリ終日内事ヲ執ル片ハ二六
 時中専ラ子女ノ教育ニ従事スル能ハス是ヲ以
 テ其専務ニシテ職業トナス所ノ教員ヲシテ其
 身ノ代理ヲ爲サシムルナリ是レ其便利上ヨリ
 起リシナリ且ツ脩身學ノ如キニ至リテハ父母
 ハ子女ニ對シ善ヲ責ムルハ恩ヲ傷フノ大ナル
 モノナリ善ヲ責ムルハ朋友ノ道ナリ古ヘハ子

ヲ換ヘテ教育セシトアリシト云フ此故ニ教員
 ハ其子女之親友ノ地位ニ居リ良教員ハ父母ニ
 代ルノ思ヒアルナリ此クノ如クナルカ故ニ父
 母タルモノハ師ヲ撰ムハ其師ノ藝術而已ナラ
 ス首トシテ其心情ヲ察シ其品行ヲ視ルヘシ已
 ニ代ルノ教育者ナレハ努メテ撰ムヘキトナリ
 前文母子ノ間ニ言ヘルカ如ク教育者ト受業者
 トノ間モ亦鏡面ト形体ノ如ク甚タ傳寫シ易キ
 者ナリ其子女ヲシテ玉ト爲サント欲セハ其師
 ノ玉ヲ撰ムヘシ安リニ委任スヘカラス西人子

女ノ教育ヲ稱シ又之レヲ三教ト言フ父母ト師
 ノ三者相須チテ成ルヲ謂フナリ其間最モ責ノ
 重キハ母ナリ國家ノ賢才ハ母タルモノ、手ニ
 出ツルト言フモ敢ヘテ溢美ニアラサルヘシ勉
 ムヘキノ一ナラスヤ西人又曰ク教育ハ教育者
 ニアリ或ハ藥ト爲リ或ハ毒ト爲ルト真ニ然ル
 ナリ水火ハ人生必需ノモノナルモ又災ヲ爲ス
 ノ恐レアリ之レヲ能ク用フルハ人ニアリ其主
 タルモノ注意セサルハケシヤ而シテ之レヲ撰
 ハントスルニハ多少教育上ノ知識ナカルヘカ

ラス其師タルモノ、學術及ヒ心情或ハ品行ヲ
 概略ニテモ認ムル所ナカルヘカラス若シ其師
 不良ニシテ最愛ノ子女タル者生長ノ後怠惰放
 蕩ト爲リ曾ツテ父母ノ命ヲ聽カス或ハ博奕ニ
 心酔シ或ハ淫事ニ耽溺等ノ所行ニ陥リ又其職
 業ヲ顧ミス父母ヲシテ斷ヘス苦慮セシムルノ
 一アラハ父母タルモノ如何ニ經濟ノ術ニ熟シ
 冗費ヲ省キ浪費ヲ慎ムモ又何ツ及ハン一般父
 母ノ情トシテ放蕩子女ヲ及リテ憐ム唯ニ日夜
 其改良ヲ祈リテ又他事ヲ顧フナキカ如シ隨ッ

テ其家事ノ經濟モ不注意ニシテ一家資産ノ損
 耗幾許ソヤ此類往々世上ニ見ル所ナリ或ハ其
 父母經濟ノ要ヲ執リ居常頗ル節儉ニシテ遂ヒ
 ニ一家ノ資産ヲ起シ年齡知命或ハ耳順ニシテ
 子女ノ爲メニ困苦スルアリ而シテ放蕩子女猶
 ホ之レヲ竣メス甚シキハ其踪跡ヲ失シ父母ヲ
 シテ殆ント生ヲ聊セシメサルニ至ル何ソ禽獸
 ト之レ擇ハンヤ是レ皆其原因教育ノ不良ニ由
 リテ遂ヒニ斯ニ至ルナリ或ハ其交友ノ不良ナ
 ルヨリ知ラス識ラス傳染シ遂ニ習慣常トナリ

テ弟二ノ天性ヲ醸成ナスモアルヘシ古人曰ク
 水ハ方圓ノ器ニ隨ヒ人ハ善惡ノ友ニ由ルト宜
 ヘナル哉然レハ其父母タルモノ子女ノ交友ニ
 注意スルモ之レヲ一大要務トス是レ亦子女ノ
 教育ノ務ニ属スルナリ察スヘキノヲナラスヤ
 此クノ如クナル力故ニ教育ハ頗ル經濟上ニ關
 スルモノナリ人ノ母タルモノ學ハサルヘカラ
 サルハ教育學ナリ

家計原論卷之上 終

家計原論 卷下 中道堂 著

家計原論卷之下

大和

篠田正作 著

第十三章 數理

數學ハ大小長短廣狹厚薄多少等ノ數量ヲ計リ
或ハ比較スルノ學ナリ一家經濟ニ於テ缺クヘ
カラサルノ學科ニシテ損益利害得失上思考ト
稱シ工夫ト言フモ皆此理ニ外ナラサルナリ然
レハ則チ人ニ妻トシテ日常家計ノ損益ヲ計ル
ノ具ハ之レヲ捨テ、又他ニアルナシ學ハサル
ヘケンヤ世ノ妻タルモノ或ハ言ハン外事ハ固

ヨリ數學ヲ要スヘシ然レ氏内事ノ些細ニ於テ
 ハ何ソ高尚ナル數學ヲ要センヤ只自ラ習熟ス
 ルノ胸算アリ之レヲ用ヒテ足レリトス婦女ニ
 シテ學フヘキモノ種々アリ豈ニ之レカ為メニ
 日子ヲ消費スルヲ之レ須ヒンヤト是レ一ヲ知
 リテ未タ其二ヲ知ラサルナリ其胸算タル但ニ
 加減ノ二法ノミ其要品買収ノ際價ヲ償フノ時
 ニ至リテハ最モ乘算ヲ要スルナリ假設八十個
 ニツキ二錢四厘ノ價ニシテ總數六十七個ヲ買
 收ス然ルニ之レカ乘算ヲ知ラス先ツ其胸中ニ

以為ラク十個ニツキ二錢四厘ナレハ一個ニツ
 キテハ其十分ノ一ニシテ即チ二厘四毛ナリト
 而シテ二厘四毛ヲ十倍シ更ニ二錢四厘ト認メ
 首位六十個ナルカ故ニ二錢四厘ノ六個ヲ和シ
 亦更ニ一個ノ價二厘四毛ノ位次ニ復ヘリ位次
 七個ナルカ故ニ二厘四毛ノ七個ヲ和シ前キノ
 首位六個ノ和數十四錢四厘ニ和スルニ後更ニ
 和シタル位次七個ノ和數一錢六厘八毛ヲ以テ
 シ斯ニ始メテ其價十六錢八毛ナルヲ知ル縱令
 ヒ珠算ヲ用フルモ乘算法ヲ知ラスハ時ヲ費

家言廣論
 卷一

二

中道堂

ス夥多ナラスヤ嘗ツテ乘算ヲ學フアラハ此ク
 ノ如キノ時間ヲ要セス但ニ六十七個ニ乘スル
 ニ二錢四厘ヲ以テセハ直チニ十六錢八毛ヲ知
 ラル、ナリ且ツ胸算ハ誤リ易シ時トシテ損害
 ヲ蒙ルヲアリ此際乘算ヲ知ルアラハ時ヲ費ス
 少クシテ違算ノ恐レアラサルヘシ而シテ凡ソ
 一時多數ノ物品ヲ買收スルキハ其百中ノ一二
 千中ノ一二十ハ殆ント無代價ノ思ヒヲ為スモ
 ノナリ是ニ於テ一枚或ハ一尾ニ於ケル價幾錢
 ナルヤヲ記憶シ置クヘシ斯ル時ニ際シ若シ

除算ヲ知ラサレハ一々胸算ニシテ算シ遂クヘ
 キヤ縱令^ヒ珠算ニシテ減算ノ法ヲ用フルモ其煩
 雜ニシテ時ヲ費ス夥多ナルヲ奈何セン嘗テテ
 除算ヲ學フアラハ其總價ヲ以テ實ト為シ其物
 數ヲ以テ法ト為シ除シテ直チニ一個ノ價ヲ知
 ルヲ得豈又便利ナラスヤ加之ナラス經濟ノ思
 ヒヨリ出テ一時多數ヲ購フ片ハ凡ヘテ廉價ナ
 リトシ買收ヲ為スモノナリ是レ固ヨリ其少數
 ノ價ニ比スレハ廉價ナリ然レ凡物多クハ貴
 カラス知ラス識ラス費シテ意トセス是レ人情

ノ常ナリ然レハ則チ甲ニ得ルモ乙ニ失セハ得策ニアラス故ニ能ク物理ヲ解スヘシ総ヘテ物ノ理ハ算數ニ係ル其損益得失ヲ知ラント欲セハ物ノ大小長短廣狹厚薄多少ノ比較ノ理ヲ能ク察スヘシ思考工夫ハ算數ヨリ出ツ故ニ多少數理ニ委シキモノ、能クスル所ナリ經濟ノ理ニ明カナラント欲スル者此ニ意ヲ注カサルヘカラス曾ツテ聞ク法官ノ理ニ明カナル者ハ皆數學ノ理ヲ窮メ特ニ幾何學ノ理ニ據ルト幾何學ハ數學中最モ高尚ニシテ大小長短廣狹厚薄

方圓角度ノ銳鈍等ノ比較要点ヲ知ルモノナリ法官ノ之レニ據ルノ理當サニ然ルベシ經濟ニ志スモノ亦甲ニ得ルモ乙ニ失スレ勿ルヘシ多少此理ニ通スルハ數學ヲ捨テ、其レ他ニアラシヤ然レハ則チ數學ハ啻ニ物數ヲ算スルノ用ノミニアラス兼ネテ工夫思考ノ基ト為ルナリ一家ノ主婦タルモノ學ハスシテ可ナランヤ

第十四章 記簿

記簿學ハ貨財ノ出納ヲシテ明瞭ナラシムルノ學ナリ家事經濟上缺クヘカラサルノ學科ニシ

テ其不經濟ニ陥ラシメス未然ニ注意セシムル
 ノ功アリ入ルヲ計リテ出ツルヲ制スルノ注意
 アルモ記簿ナクンハ何ニカ據ラン華盛頓ハ米
 國有名ノ人ナリ且ツ其地位大統領ノ任ニアリ
 富且ツ貴ト言フヘシ然ルニ居常坐右ニ金錢出
 納簿ヲ置キ外出ノ時ト雖必携ヘサルナク暇ア
 レハ之レヲ檢閲ス「エルリント」ハ英ノ將軍ナ
 リ是レ亦富且ツ貴クシテ常ニ大敵ヲモ恐レサ
 ルハ其職掌ナリ然ルニ亦華盛頓ノ如シ此二人
 ニシテ之レヲ為ス殊ニ負債ヲ恐ル、甚シト此

上位ニ在ルノ人ニシテ其記簿ヲ重シスル此ク
 ノ如シ況ンヤ其富貴ノ之レニ及ハサルモノニ
 於テヲヤ常ニ記簿ヲ明瞭ニシ週末或ハ月末ニ
 至リ之レヲ檢閲セハ縱令ヒ一時不注意ニシテ
 費額ヲ超過スルノ事アルモ尚ホ其後ヲ慎ムヘ
 シ世ノ一家ノ妻女ニシテ往々之レカ務ヲ為サ
 ス其言ニ曰ク日々筆ヲ執リテ簿表ニ記ス此細
 事ノ多キ實ニ煩惱ニ堪ヘス之レヲ為シテ何ノ
 益カアル且ツ束縛ヲ受クルカ如ク事務頗ル究
 窟ナリ是レ他ナシ吾夫已カ貨財ヲ私セントヲ

疑懼スルナルヘシ又甚タ寃ナラスヤト反リテ
 夫ヲ怨望スルアリ誤レルノ甚シキニアラスヤ
 挽今泰西ノ法ニ倣ヒ記簿ノ体裁異レリ是レ甚
 タ明瞭ナルモノナリ之レヲ學フヲ然リトス然
 レ氏中等以下ノ資産ニ至リテハ日用ノ家事出
 納簿等ハ多クハ反古ノ裏面ヲ用フ是レ亦經濟
 至上ヨリ出テ一般ノ風習トナリタルモノナリ
 一時西洋法ニ變換スルハ甚タ難シ故ニ西洋法
 ヲ學ハサルモノハ姑ク之レヲ用フヤシ良法ア
 リト雖行ハサレハ徒法ニ歸ス姑ク其行ヒ易キ

ニ隨フヘシ而シテ西洋法ノ如ク明瞭ナラサル
 モ或ハ出ハ高ク納ハ低キノ如ク可成的明瞭ナ
 ランコヲ務メ或ハ工夫ヲ凝ラシ或ハ何處ヲ問
 ハス其術ニ巧ナル人ニ就キ其要ヲ問ヒ且ツ質
 是レ亦記簿學ナリ而シテ今ヨリ始メテ學フ
 ノ女ハ庶幾ハ西洋記簿ノ法ヲ學ハンコヲ然レ
 氏師ニ乏シキノ土地ノ如キハ又止ムヲ得サル
 ナリ姑ク舊貫ニ仍ルヘシ華盛頓ヨリリント
 スラ猶ホ此ノ如シ一家ノ主婦タルモノ常ニ此
 注意アルヘキナリ記簿學ハ其レ學ハサルヘケ

ンヤ

第十五章 文章

文章學ハ隔離ノ人ヲシテ已レカ心意ヲ知ラシムルニ際シ事ヲ記シテ明瞭ナラシムルノ學ナリ
 婦女ニシテハ高尚ノ文ヲ要セス就中尺牘ヲ首ト為シ受取証券等ヲ記スルノ覺ナカルヘカラス時トシテ其夫ノ不在ニ當リ臨時ニ他ヨリ物品ヲ送ルアリ若シ其際之レヲ領收セス日ヲ經テ復ヒ送り來リ過多ノ損害ヲ招クヲアリ其損害タル但タニ一葉ノ領收証券ヲ記スル能ハサル

ニ起因ス宣遺憾ナラスヤ或ハ非常或ハ損益上ニ關スルトアリ夫ノ外出居所ヘ報スルトアリ而ルニ其妻文章ヲ能クセサレハ是レ亦緊要ヲ缺クナリ實ニ遺憾ト言フヘシ然ルト雖人或ハ言ハン縱令ヒ文章ヲ能クセサルモ近隣其人十カランヤ之レニ就キテ書記ヲ乞フベシ又緊要ヲ缺クナシ何ソ故ラニ學フヲ要セント是レ事ニ緩急アルヲ思ハサルナリ或ハ非常急劇ナルトアリ或ハ其職業上或ハ其他ト雖時トシテハ他聞ヲ憚リ漏レントヲ恐ルノ隱密事件アリ

家言原論

七

中近堂藏

其隱密ノ洩レシヨリ頗ル損害ヲ生セハ如何ニ
到底已レニ學ヒ得スンハ甚タ不自由ナルヲナリ
務メテ學フヘキノ學科タリ

第十六章 割烹調理

割烹調理術ハ食物ヲ料理シ及ヒ烹ルヲ割烹ト
云ヒ能ク五味ヲ調フルヲ調理ト云フ共ニ日常
掌トル所ニシテ主婦タルモノ、職務ナリ此務
ヲ為スニ於テハ首トシテ食物ノ性質及ヒ割烹
調理ノ術ヲ知ラサルヘカラズ其性質ヲ知ルモ
種々ナリ割烹調理ノ術亦多々アリ其性質ヲ知

ルノ理ト割烹調理ノ術ニ至リテハ他ニ學フヘ
キノ書アリ之レニ就キテ學フベシ帝ニ書ヲ讀
ムノミナラス其各ノ地ニ隨ヒ此理此術ニ熟シ
タル實驗者ニ就キ質サ、ルヘカラス然リ而シ
テ凡ソ術ト稱スヘキ者ハ帝ニ書ヲ讀ミ或ハ熟
練者ニ就キ質セシノミニテ得ヘキニアラス必
ヤ反覆玩味之レヲ執リテ而シテ後ニ得ルモノ
ナリ故ニ必シモ書ニ據ラス又必シモ師ノ說ニ
依頼セズ多少已レガ工夫熟考ナカルヘカラス是
レ婦女タルモノ生涯掌トルノ要務ナレハ今日

學ンテ明日廢スルヲ得ルノ業ニアラサルハ固
 ヨリナリ矣然レ氏常々之レニ心ヲ用フルト用
 ヒサルトニ於テ大ニ巧拙アリ將タ經濟ニ關ス
 ルヤ大ナリ既テニ上章ニ於テ陳ヘシカ如ク飲
 食ハ人ノ太慾ナリ故ニ動モスレハ奢侈ニ流ル
 、易シ他ノ衣服及ヒ家屋什器等ノ如ク永久ヲ
 持ツモノニアラス即時ニ盡クルモノナレハ最
 モ高價ナルカ如シ是ヲ以テ經濟上冗費ヲ省キ
 浪費ヲ顧ミルハ最モ此飲食ノ割烹調理術ニア
 ルナリ注意セサルヘケンヤ低價ノ品ニシテ頗

ル厚味ナラサルモ其割烹調理ノ適スルト其体
 裁トニ依リテ大ニ味ヲ増スカ如シ且ツ如何ナ
 ル厚味ノ物ト雖日々同物ナラシメハ甚タ厭ヒ
 飽クモノナリ注意スヘキナラスヤ割烹調理
 術ハ飲食上經濟ノ歸スル所ナレハ一家ノ主婦
 タルモノ其術ヲ以テ足レリトセス日々工夫熟
 考ヲ重ネ生涯之レヲ學フト心得ヘシ必經濟上
 ニ効驗アルヘシ

第十七章 裁縫

裁縫術ハ絹布織物等ヲ裁チ之レヲ縫ヒ着用ニ

供スルノ術ナリ是レ亦主婦ノ要務ナリ其婚嫁ノ時ニ先チ豫メ學フ所ナカルヘカラス其學齡ニ當リ多クハ必要ナル裁縫ヲ學ハス歌謠三弦踏舞等ノ必要ナラサル遊藝ニ心醉沈溺シ父母亦其子女ノ先途ヲ思ハス歎スヘキニアラスヤ往々之レカ爲ニ婦道ヲ誤リ其婦道ノ本務ノ何モノタルヲ辨セサルアリ誤レリト言フヘシ見ルヘシ世ノ玩弄婦女ヲ一旦瑤輿ニ乗ルト雖多クハ其終リヲ能クセス務メテ目前ノ利ニ迷ハス永遠ノ公道ヲ守ルヘシ其裁縫術ヲ學フアル

モ或ハ繁忙ノ際止ムヲ得スシテ人ニ托ス而ルモ往々損害ヲ蒙ルトアリ爰ニ一二ノ例ヲ舉クレハ或ハ縫數ノ粗ナルアリ或ハ縫糸ノ脆キアリ或ハ隱然尺寸ヲ損ス而シテ尚ホ其裁縫ノ意ニ適セサルアリ且ツ其藝衣ノ如キ豈一々ニシテ之レヲ人ニ托スヘケンヤ不經濟モ亦甚シカラスヤ而ルヲ况ンヤ之レヲ學ハサルモノニ於テヲヤ主婦タルモノ、首トシテ學フヘキハ此術ナリ學ハスシテ可ナランヤ

第十八章 紡績機織

紡績及ヒ機織術ハ蠶或ハ綿ヲ以テ糸ヲ製シ之
 レヲ用ヒテ絹布等ヲ織ルノ術ナレハ婦女タル
 モノ、學ハサルヘカラサルハ固ヨリナリ矣然
 リト雖少シク都會ノ風ヲ爲セシ地ニ於テハ一
 般ノ流行ニ誘引セラレ家製ノ絹布ヲ着スルヲ
 欲セス且ツ交際モ多ケレハ隨ツテ内事多ク之
 レニ従事スルニ遑アラサル乎方今ニ於テハ紡
 績及ヒ機織ハ一種ノ工業トナレルカ如ク更ニ
 商賈ヲ經テ購求スルニ至レリ其家製ヲ用フル
 ハ多クハ僻陬地方ニ存スルノ固ヨリ一家主

婦タリ婦女タルモノ、務ト雖又世ト推シ遷ラ
 サルヘカラサル乎然レ氏其地ト職業トニ隨ヒ
 唯經濟ニ問フヘキ耳

第十九章 洗濯

洗濯術ハ衣服等ノ垢着キタル汚穢物ヲ洗ヒ濯
 クノ術ニシテ健康ヲ保護シ不健康ヲ防クヲ主
 トス女子タルモノ婚嫁ノ前既テニ學ヒ知ルヘ
 キナリ縱令ヒ嫁シテ後其家富豪ニシテ自ラ之
 レヲ執ラサルモ其覺ヘナクシテ人ヲ指揮スル
 ヲ如何セン且ツ常ニ垢着キタル汚穢ノ衣服ヲ

著スルハ頗ル健康ヲ害スルノ理ヲ會得シ其洗濯ニ注意セサルヘカラス同居ノ家人其誰タルヲ問ハス病者アルハ不幸ナリ甚タ經濟ニ關係ス慎ムヘキヲナラスヤ世ノ婦女ニシテ但外見ニ執スル者アリ其心ニ曰ク衣服ハ凡ヘテ着色品ヲ是トス頗ル繁忙ヲ省クノ利アリ其實垢ノ着キタルモ速ニ外面其形跡ヲ顯ハサス是レ甚夕可ナリ計誤リテ之ヲ以テ經濟ノ要ヲ得夕リトス安ニソ知ラシ其實不經濟ニシテ其基スル所懶惰ナルヲ抑垢ナルモノハ塵埃ノ粉末發

汗ノ液ニ濕ヒ衣服ノ裏面ニ粘著シタルモノナリ而シテ此垢衣肌膚ニ密接スルキハ体中ノ液類肉身熱ノ為メニ蒸發サレ蒸發氣ト為リテ毛孔ヨリ出ツ此蒸發氣ノ冷ヘテ液ニ歸リタルモノ是レ則チ汗ナリ此汗ヲ以テ衣服裡面ノ乾垢ヲ濕シ更ニ濕垢ト爲シテ毛孔ニ填塞ス毛孔之レニ填充セラレテ之ヲ被ハレ復ヒ体中無用ノ廢物ヲ漏ラサントスルニ處ナシ是ニ於テ乎其氣鬱々トシテ精神甚タ爽快ナラス遂ヒニ病ヲ醸スニ至ル豈恐ルヘキニアラスヤ世ノ婦女

タルモノ或ハ言ハン爰ニ一二ノ健康者アリ臭
 氣甚シキ垢衣ヲ着ス而ルモ其不健康ノ色ヲ見
 スト然レモ凡ソ事ハ其一ニヲ以テ例スルヲ得
 ス且ツ日常家屋外ニアリ清涼新鮮ナル大氣ヲ
 吸収スル者ハ之レカ為メニ肺臟ヲ清クス此ク
 ノ如キノ故ヲ以テ健康ヲ補フモノナリ今之レ
 ニ反シ居常家屋ノ内ニ居リ終日業ヲ執ル者ハ
 此例ニ倣フヲ得ス努メテ其身体ヲ清潔ニセサ
 ルヘカラス而シテ美麗ノ弊ヲ為スヘカラス其
 絹布ノ垢衣ヲ著ンヨリハ寧口綿布ノ潔衣ヲ着

ヤヨ若レ一朝疾病ニ罹リ卧褥ニ就クノ一アラ
 ハ憂慮失費ハ幾何ソヤ其繁忙ニ孰レワヤ洗濯
 術モ亦頗ル經濟ニ關スルナリ勉ムヘキナラ
 スヤ一家ノ主婦タルモノ必ス之レヲ忽セニス
 ル勿レ

第二十章 家計

家計取扱ノ心得アルヘシ衣服器具ヲ論セス凡
 ヘテ家屋中ニ供ヘアルモノヲ家計ト稱ス先ツ
 衣服ノ取扱ニシテハ其方法ニヨリ大ニ其体裁
 ヲ損シ其質ヲ荒ラシ充分ニ存留スル能ハサル

ナリ其他器具等ニ至リテモ其取扱ノ方法ニヨ
 リ頗ル供用ノ年限ヲ縮ムルモノナリ常ニ心ヲ
 用フヘキナリ之カ心得ニ就キ一ヲ逐フテ記ス
 ルキハ枚擧スルニ遑アラス別ニ記載ノ書アリ
 就イテ見ルヘシ然レモ實際經驗ノ上ナラテハ
 真ニ其旨ヲ得タリト言フヘカラス常ニ心得ア
 ル老嫗ニ近接シ心ヲ虚ニシ氣ヲ平ニシテ質問
 スヘシ唯丁寧ヲ肝要トス殊ニ貴重ノ品類ニシ
 テハ尚ホ鄭重ヲ加フヘシ居常經驗スルアラハ
 自ラ心ニ得ル所アラシ察スヘシ勉ムヘシ

第廿一章 僕婢

僕婢取扱ノ心得アリ此心得ハ主トスル所仁慈
 ニアリ仁慈ノ心ナクシハ其心ヲ得ル不能ハス
 カヲ以テ人ヲ服スル者ハ心服スルニ非ス力贍
 ラサレハナリ徳ヲ以テ人ヲ服スル者ハ中心悅
 ンテ誠ニ服ス威服ハ一時ナリ其目前ノ明界ノ
 ミ心服ハ然ラス永久ニシテ其見サル處ノ幽界
 ニ及フ威服ノ効ハ少シ心服ノ効豈大ナラスヤ
 人ヲ使役スルノ術ハ先ツ其被使者ノ心ヲ攬リ
 得ルヨリ大ナルハナシ務メテ被使者ノ期望ヲ

推察シ忠恕ノカヲ用ヒサルヘカラス世ノ諺ニ
 曰ク人ヲ使役スルハ即チ已レカ心ヲ使役スルナ
 リト此語甚タ盡セリ故ニ能ク使役セント欲セ
 ハ顧ミテ已レカ心ヲ使役シ彼レヲシテ先ツ其恩
 徳ニ懐カシメ而シテ已レカ心ヲ恕サシムルナリ
 其惡ヲ懲ラサンヨリハ善ヲ勸メヨ其失ヲ責メ
 シヨリハ其得ヲ賞セヨ罪ノ疑ハシキハ輕キニ
 从ヒ功ノ疑ハシキハ重キニ从ヘ自ラ快意ニ之
 レヲ使役スルヲ得ヘシト必スル勿レ但ニ已レカ
 意ニ隨ヒ使役スルヲ必スレハ反リテ意ノ如ク

ナラサルモノナリ設令ハ船ト水トノ如シ主人
 ハ船ノ如ノ僕婢ハ水ノ如シ水能ク船ヲ上セ又
 能ク船ヲ覆ヘス船能ク水上ヲ走ルヲ得ルモ帆
 ヲ揚ケ楫ヲ把ル各其法ナカルヘカラス而ルヲ
 船其自ラ走ルヲ得ルノカヲ恃ミ踏ムカ如ク蹴
 ルカ如ク之レヲ蹂躪スルノ思アリ加之ナラス
 之レカ帆ヲ揚ケ楫ヲ把ルニ一定ノ法則ナクシ
 テ意ニ任セテ水ヲ航ラハ豈危険ナラスヤ船素
 ト精神アルモノニアラス然レ氏之レカ主トナ
 ル船將アリ水亦素ト精神アラス然レ氏其船將

タルモノ水ヲ顧ミハ船安穩ナリ顧ミサレハ危
 險ニ瀕ス主ト僕婢ノ間モ亦此クノ如シ察スヘ
 キヲナラスヤ然リ而シテ主タルモノ、一大要
 アリ何ソヤ曰ク聰明ナリ聰能ク言語ヲ聽キ明
 能ク正邪ヲ視ル然ラサレハ時トシテ欺論セラ
 ル、トアリ是レ亦察スヘキヲナリ細カニ其性
 質ヲ論スルキハ主ハ即チ依頼主ナリ僕婢ハ即
 チ依頼ヲ受クルモノナリ主ハ則チ日常事ヲ執
 ルニ際シ力足ラスシテ補助ヲ望ムモノナリ故
 ニ一月或ハ半年ノ價ヲ償ヒ補助ノ力ヲ買フナ

リ僕婢ハ則チ價ヲ收メテ其補助ノ力ヲ賣ルモ
 ノナリ世人多クハ其紹介ヲ職業トスル者ニ由
 リ或ハ夤縁ヲ求メ自ラ求メテ僕婢トナル其外
 形ヲ見ルキハ僕婢ハ依頼ノ主ノ如シト雖或ハ
 實驗修業或ハ貧困ノ爲メニ僕婢自ラ價ヲ俟タ
 スシテ補助ノ力ヲ賣ルナリ使役スル者此性質
 ヲ知ラス賣者世上ニ多キヲ以テ之レヲ輕蔑ス
 ルノ心反リテ慈愛心ニ克チ暴令虐使等ノ不條
 理ナル待遇ニ陥ルナリ其主タルモノ、仁慈ヲ
 垂レ僕婢タルモノ、忠節ヲ盡スヤ互ヒニ義務

トスル所ナリ而シテ其先後ヲ論スルキハ夫ノ
 夫婦間ノ如キ生涯同棲ノモノニアラス欲セサ
 レハ去ル此クノ如クナルカ故ニ其主タルモノ
 先ツ仁慈ヲ施シ而シテ後僕婢タルモノ之レニ
 報ユルニ忠節ヲ以テスルハ順ナリ而ルヲ先ツ
 主タルモノヨリ忠節ヲ求メ隨ツテ之レヲ責ム
 ルハ是レ逆ナリ世ノ一家主婦トシテ先ツ其忠
 節ヲ求ムル切ニシテ庖厨前傍下婢ニ對シテ喧
 囂スルアリ下婢亦之レニ言ヲ返シ互ヒニ義務
 ノ先後ヲ爭フカ如シ其主婦誤レリト言ハサル

ヘケンヤ其施ヲ為サスシテ先ツ報ヒテ求メ其
 補助ヲ乞フモノニシテ補助者ヲ罵詈ス補助者
 意ノ如クナラサルモ將タ誰ヲカ恨ミン盍ンソ
 其本ニ反ラサル其家則或ハ其期限ヲ定ムル等
 ノ如キハ其地其家ニ隨ヒ制ヤサルヘカラス僕
 婢中最モ注意シテ撰ムヘキモノアリ乳母及ヒ
 傳婢ナリ是レ一般通常ノ補助ヲ要スル僕婢ノ
 類ニアラス之レヲ乳母ニシテハ其最愛ノ兒ヲ
 托シ其愛兒ノ母ニ代リ養料ノ乳汁ヲ飲マシメ
 兼ネテ日々其愛兒ニ近接スレハ兒タルモノ耳

ノ聽ク所目ノ視ル所乳母之レカ習慣ノ師ト為
 ルモノナリ必其乳母ヲ輕蔑シテ其愛兒ヲ害フ
 勿レ乳母ノ接遇良カラスシテ其愛兒ヲシテ生
 涯邪僻ノ習慣アラシメハ臍ヲ噬ム氏及フナカ
 ラン故ニ能ク其源ニ遡リ乳母ノ務ノ性質ヲ瞭
 知シ至當ノ待遇アルヘキナリ世ノ主婦タルモ
 ノ往々之レヲ察セズ偏ヘニ乳母ノ惡風ヲ説ク
 少ク其身ニ顧ルヘシ之レヲ傳婢ニシテハ殊ニ
 愛兒ヲ保護スルノ務ニシテ常ニ愛兒ヲシテ危
 險ニ陥ラシメス且ツ愛兒ヲシテ良習慣ヲ得セ

シメント欲スルモノナリ然レハ其保護者ニシ
 テ習慣ノ師範ヲ兼ネタルモノナリ故ニ務メテ
 其人ヲ撰マサルヘカラス傳婢ナル者ハ本邦ノ
 風習トシテ最モ賤劣ノ務トス故ニ隨ツテ概ネ
 其品行良カラス或ハ其護ル所ノ兒ヲ顧ミス或
 ハ其兒ヲ虐スル者アリ且ツ不良ノ傳婢謠ツテ
 曰ク兒ヲ愛セント欲セハ傳婢ヲ愛スヘシ傳婢
 ヲ虐スル片ハ其報愛兒ニ來ルト是レ今日一般
 傳婢ノ情態ナリ今ノ時ニ當リ充分教育ヲ受ケ
 タルモノヲ求ルモ難シ故ニ能ク其性質ト平常

ノ品行ニ注意シ之レヲ擇マサルヘカラス其保
 護ノ重シスヘキハ固ヨリナリ而シテ習慣ノ師
 モ亦重シ現時ニ於テハ兒ノ幸不幸著シク見ハ
 ス所ナキカ如シ然レ氏其生涯ノ幸不幸理ニ於
 テ判シ得ヘシ心ヲ潜メテ能ク察スヘシ諺ニ曰
 ク氏ヨリ育チト豈之レヲ謂フ乎抑育チナルモ
 ノハ居常已レニ近接スル所其已レカ師範トナリ耳
 目ノ觸ル、所腦裡ニ浸潤積重シ知ラス識ラス
 第二ノ天性ヲ成スモノナリ乳母及ヒ傳婢ノ兒
 ニ於ケルモ亦猶ホ鏡面ト形体トノ如シ之レヲ

思ヘハ一日モ忽セニスヘケンヤ僕婢取扱ハ甚
 タ經濟ニ關スルモノナリ一家ノ主婦タルモノ
 豫メ其心得ナカルヘケンヤ

第廿二章 交際

交際ノ心得アリ此心得ハ親戚ヲ首トシ夫ノ友
 人夥多アルヘシ其間親友アリ僚友アリ將タ交
 友アリ一家ノ主婦タルモノ其親疎厚薄ヲ察セ
 サルヘカラス然ラサレハ其疎キヲシテ親キニ
 踰ヘシメ其薄クスル所ヲ以テ厚クシ其厚クス
 ル所ニシテ反リテ薄クスルノ恐レアリ其交際

タル日常來客ノ饗應等ヨリ婚姻出産葬奠祭祀
 等ノ贈遺ニ至ルマテ悉ク主婦タルモノ、責任
 トシ之レヲ擔當スヘキモノナリ故ニ豫メ其交
 際ノ親疎厚薄ニ隨ヒ心得ナカルヘカラス凡ソ
 交際ハ目下其費額ヲ重ネ損害アルカ如シト雖
 決シテ然ラサルナリ但夕其奢侈ニ流レ華美ニ
 走ルヲ恐ル、耳何ノ職業ヲ問ハス貴賤貧富ヲ
 論セス之レニ由リテ益ヲ得ルヲ多々アリ而シ
 テ其交際ヲ擇ムハ一家ノ主タル即チ夫タルモ
 ノ、任ナリ夫レ交際ハ人ノ天性ナリ素ト聚合

ノ性ヲ有ス人タルモノ決シテ孤立スルヲ得ヘ
 カラサルナリ世ニ功ヲ成スモノ各其業ヲ分チ
 皆相須チテ用ヲ爲ス其原理ヲ論スルキハ假令
 ハ爰ニ一ノ男子アリ其天性必孤立ヲ保タス是
 ニ於テ婦ヲ聚ル既テニ夫婦アリ父子ナカルベ
 カラス子亦婦ナカルヘカラス女亦夫ナカルベ
 カラス是ニ至リテ兄弟姊妹姻婭ヲ生ス兄弟姉
 妹各子女ヲ舉ク是ニ至リテ叔姪從弟生シ隨ツ
 テ親戚延蔓ス是レ交際ノ始ナリ因リテ主從ア
 リ朋友アリ及ンテ一般世人ニ至ル一町村一區

家言原論 卷下

三十一

中道堂藏

一郡ヨリ一郡一府縣ニ至リ又全國ニ至ル交際
 ナクシハ國其レ立ツヘケンヤ國亦交際ナカル
 ハカラス甲國アリ交際ヲ乙國ニ求ム理由ナク
 シテ之レヲ拒絕シ強イテ鎖國ヲ爲スヲ得ヘケ
 シヤ是レ本邦ノ各國交際アル所以ナリ天ノ覆
 フ所地ノ載スル所日月ノ照ラス所霜露ノ墜ツ
 ル所舟車ノ通スル所言語ノ通スル所凡ソ血氣
 アル者交際セサルハナシ故ニ天性ト曰フ是レ
 天ノ理ナリ人ノ性ナリ敢ヘテ人カヲ以テ拒ム
 ヲ得サルナリ其職業ニ於テハ農業ノミニシテ

孤立スヘカラス工業ノミニシテ孤立スヘカラ
 ス將タ商業ノミニシテ孤立スヘカラス其他僧
 侶ト曰ヒ神職ト曰ヒ學者ト曰ヒ醫師ト曰ヒ總
 ヘテ屹然孤立スルヲ得ヘカラスサルモノナリ而
 シテ業ヲ換ヘ物ヲ通セハ必言語ヲ交ヘサルヘ
 カラス近接數回ナレハ互ヒニ往來シ其疎隔ノ
 地ニ於テハ互ヒニ雁書ノ往復アルヘシ此クノ
 如クナレハ日ヲ逐ヒ親近スルハ是レ自然ノ勢
 ナリ此際ニ至リテハ茶烟草等ノ饗應ヨリ及ン
 テ酒食宿泊ノ饗應アルヘシ推シ及ンテハ遠近

ヲ論セス吉ヲ慶シ凶ヲ吊スル亦必贈遺アルヘシ是レ交際ノ免ル能ハサル所以ナリ經濟ニ志ス者唯其始奢侈ニ過キサルヲ要スルノミ若シ始奢侈ニ過クルアリ後ニ少シク儉スルアラハ彼ノ乾餽以テ之レヲ過ツノ恐レナキ能ハス古語ニ曰ク喪ハ其奢ランヨリハ寧口儉セヨト余モ亦曰ハン饗應ハ其奢ランヨリハ寧口儉セヨト奢ル氏ハ交際久シカラス以テ交際ノ益ヲ捨ツルトアリ然レ氏事ニ常アリ變アリ一時臨機ノ所置是レ亦ナカルヘカラス而シテ常ヲ為ス

ハ易ク變ニ處スルハ難シ能ク先後ヲ考索シテ而ル後ニ行フヘシ凡ヘテ饗應ハ主婦タルモノ、務ト雖事ノ大ナル氏ハ其一家ノ主タルモノニ謀ラサルヘカラス然レ氏其時ト地位ニ依ル耳

第廿三章 需用品買收

需用品買收ノ心得アリ此心得ハ其始先ツ不用品玩弄品ヲ買收セサラント常ニ心ヲ用フヘシ而シテ其需用ノ品中ト雖急アリ不急アリ能ク其先後順序ヲ計ラサルヘカラス或ハ一方ニ偏

シ一ニ重クシテ一ニ輕キカ如キ不權衡アルヘ
カラス假令ハ甲ノ品種ハ高價ニシテ美麗ナリ
乙ノ品種ハ低價ニシテ粗惡ナルカ如キ或ハ必
要品數種ヲ購フヘキノ資財ヲ費シ合セテ一品
種ヲ購ヒ曾ツテ其後ヲ顧ハサルカ如キ是レナ
リ動モスレハ行商ノ慇懃ニ罹リ其急ナルヲ後
ニシ其不急ナルヲ先ツ購求スルアリ而シテ後
存スル所ノ資財ヲ以テ他ニ費ス等ノ一アラハ
急需ノ品種ハ缺乏セン此クノ如キハ貧人ニア
ルヘシ富人ノ如キハ之レアラサルヘシ然リト

雖此注意アルヘキナリ古人曰ク國亂レテ忠臣
見ハレ家貧クシテ賢婦見ハルト貧富資産ハ差
異アリト雖理ハ即チ一ナリ其功ヲ見ハスニ至
リテハ貧人ニ於テ著シトス賒買ハ損アリ現金
買ハ損ナシトハ一般ノ通論ナリ然レ氏或ハ職
業或ハ品種或ハ其地ノ都鄙便否ニ隨ヒ概論ス
ヘカラス能ク其實際ニ就キ之レヲ經驗シ斷ヘ
ス注意ヲ要スヘキナリ經濟ハ注意ナリ如何ニ
經濟ノ要ヲ知ル氏注意セサレハ其功ヲ爲サス
注意厚ケレハ自ラ行フニ易シ能ク其實際ニ經

驗セシ老練者ニ就キ質問シ復ヒ己レカ心ニ問ヒ
 以テ實地ニ經驗スヘシ是レ自ラ其要ヲ得シ學
 問思辨ノ四箇ノモノハ其事ノ何タルヲ論セス
 事ヲ學フノ工夫タリ先ツ其事ノ記載セル書ヲ
 讀ミ讀ミテ心ニ記シタル所反覆之レヲ考察玩
 味シ其間疑惑ノ起ルアラハ其老練ノ者ニ對シ
 審カニ之レヲ質問シ慎シテ之レヲ思考シ明カ
 ニ之レヲ辨別スルキハ之レヲ行フヲ得ルモノ
 ナリ然レ氏之レヲ行ヒ易シトシテ之レヲ輕侮
 スル勿レ尚ホ篤志ヲ要ス縱令ヒ之レヲ行ヒ得

ルモ其心篤カラサレハ永久保持セス故ニ篤ク
 信シテ行フヘシ務メテ心ヲ鍛鍊スレハ損益利
 害得失ノ理ヲ細カニ覺リ得ヘキナリ是レ心ノ
 妙ナリ其書籍等ノ外物ノミニ膠着セス取捨ノ
 權利ハ心ニアルヘシ古人曰ク盡ク書ヲ信セハ
 書ナキニハ如カスト此語以テ証スヘキナリ一
 ヲ能ク其心ニ問フヘシ縱令ヒ天下ノ首府ニ住
 シ才子智者ノ傍ラニ在リ日ニ數卷ノ書ヲ讀ム
 氏己レカ心ヲ省ミスンハ將タ其功解カラシ之レ
 ニ反シ山野寂寥タル僻陬ニアルモ心常ニ馬ニ

アラハ理ニ明カナラサルハナシ但問フコトヲ吝
ム勿レ而シテ人ニ對シテ問フキハ務メテ虚心
平氣ナルヘシ其退イテ已レカ心ニ問フキハ反リ
テ心ヲ實ニ為シ他ニ放心スルアル勿レ放心ト
虚心トハ自ラ異ナルモノナリ能ク熟察スヘシ

第廿四章 非常

非常ノ際心得アリ何レノ地ヲ問ハス平常其心
得ナカルヘカラス時ニ際シテ注意ヲ喚起スル
モ又何ソ及ハシ故ニ平常品種輕重ノ區別ヲ為
シ且ツ可成的檢束シ尚ホ且ツ用具ヲ豫備スヘ

シ然スル片ハ水火等ノ難ニ遇フモ其品種ノ輕
重ヲ錯誤セス輕品ヲ存シテ重品ヲ込スル如キ
ノ憂鮮カルヘシ然ラサレハ其際ニ臨ミ頗ル狼
狽シテ手足ヲ措クニ其處ヲ知ラス錯誤スルノ
恐アリ彼ノ徒ラニ屋外ニ佇立或ハ彷徨シ行燈
或ハ箒ノ如キ輕品ヲ携フルハ往々人ノ見ル所
ナリ是レ重品ヲ込スルノ恐レアルノミナラス
其不注意ヲ嗤笑セラル是ヲ以テ平常無事ノ日
ト雖非常ノ恐レヲ忘ルヘカラス常ニ居テ非常
ヲ忘レサルハ即チ是レ心得ナリ是レ亦一家主

婦タルモノ、務ナリ其際ニ臨ミ精神ヲ鎮静スル等ノ如キハ抑モ亦平生ノ養成ニアル耳

第廿五章 音曲

音曲ハ挽今愈盛ニシテ殆ント婦女ニシテ重要ナル學科ノ如ク心得ルカ如シ至ル處桑澗濮上ノ聲ヲ聞カサルナシ殊ニ都會ヲ甚タシトス其僻陬ノ地ト雖三五十乃至百戸以上密接スルノ地ニ於テハ其公然ト隱然トヲ問ハス其師アラサルハナシ又驚クヘキニアラスヤ其弊害甚ク家計ニ關係スルヲ以テ茲ニ一論セントス余

聞ク音曲ナルモノハ固ト樂ノ一派ニシテ樂ノ要スル所其胸間ノ鬱悶ヲ遣リ其性情ヲ和調シ其精神ヲシテ爽快ナラシメ以テ行為ノ不良ヲ矯揉スルノ具ナリト然ルニ今ヤ之レヲ反シテ不良ニ誘ク其謠フ所悉ク淫情ヲシテ勃興セシムルノ謠曲ニシテ甚タ風俗ヲ害ス其歌謠中實ニ面ヲ揚ケテ聽クニ忍ヒサルモノアリ凡ソ人タルモノ幼稚ニシテ又幼稚ナルニ隨ヒ頗ル感覺ノ鋭敏ナルモノナリ故ニ甚タ習慣成リ易シ然ルニ小學定期ノ學齡年間中ナル七八歳ノ幼

女ヲシテ其必要ナル學科ヲ學ハシメス及リテ
 有害ナル淫曲ニ習慣セシメ暗ニ采蘭贈芍ノ基
 ヲ為ス其教育ノ責任アル父母ニシテ誤リテ是
 レ亦教育責任中ノモノト為ス乎其淫猥ナル哥
 謠ヲ聽キ其淫聲ノ音調ヲ聽キ或ハ手ヲ拍チ或
 ハ雀躍シ精神恍惚トシテ其女ヲ賞ス是レ如何
 ナル父母ノ精神ソヤ幼女猶ホ無智ニシテ正邪
 ヲ判スル能ハズ之レヲシテ不義淫奔ニ誘導ス
 ルハ抑誰カ過チソヤ顧ハサルノ甚シキナリ是
 レ畢竟其女ヲ愛シ其先途ヲ思フニアラスシテ

徒ラニ時日ト資財ヲ費シ父母タルモノ已レカ淫
 邪ノ心ヲ以テ妄リニ愛兒ノ心ヲ忖度シ之レヲ
 忠恕ヲ得タルモノトシ是レ真ニ慈愛ノ理ト認
 ムルト雖馬ンソ知ラシ其實愛スルニアラスシ
 テ唯ニ父母タルモノ已レカ情慾ニ真理ヲ奪ハレ
 其女ヲ玩弄スルナルヲ愚モ亦甚タシト言フヘ
 シ謠曲中男女ノ癡情濃カニシテ或ハ父母ニ背
 キ或ハ長上ノ命ヲ用ヒス其他非倫甚シキモノ
 アリ且ツ之レニ應シテ踏舞ヲ為ス余嘗ツテ踏
 舞ヲ觀ル其舞衣ノ如キ燦爛トシテ一瞥眼光ヲ

奪フカ如シ而シテ其踏舞者タル年齢十歳ヲ出
テサル幼女ニシテ其演スル所一ハ淫奔ノ少女
ニシテ家長ノ女ナリ一ハ少僕ニシテ家長ノ女
ヲシテ貞操ヲ破ラシメタル不良ノ僕ナリ互ヒ
ニ癡情相迫ルノ醜体ヲ演ス惡是レ何ノ戯レソ
ヤ豫メ幼女先途ノ不幸ヲトセリ且ツ其傍ニ一
室アリ男女席ヲ同クシ或ハ謡ヒ或ハ彈シ或ハ
笛キ鼓ツ其間艶語或ハ滑稽ヲ以テ戯ル、アリ
其淫褻猥陋ナル見聞スルニ忍ヒス而シテ是レ
皆良家ノ女ニシテ其配偶モ亦良家ナルヘシ將

來一個ノ主婦トナリ即チ人ノ妻トナリ即チ人
ノ母トナリ貞操之レヲ守リテ淫行アラス一家
幸福ヲ維持スルノ任ニ居リ其母トナリテハ所
謂其膝脚ヲ以テ教ヘノ机案ト為スノ人ナリ然
ルニ此クノ如シ幼ニシテ異日主婦タルノ學科
ヲ學ハス經濟ノ習慣アラス淫奔較著ナル斯ル
男女ニ薰陶セラル嗚呼惑ヘル哉夫レ舞妓ニ用
フル所ノ美衣ハ僅々ノ價ニアラス其他飲食等
ノ一切費額ヲ總計スレハ亦僅々ノ額ニアラス
之レニ加フルニ平常其師ニ酬ユル所ノ謝儀ヲ

以テシ之レヲ費シテ將タ何ノ益カアル但夕一時ノ快ヲ買フ耳而シテ必然後チニ害アルモノナリ凡ソ婦女ノ貞操ヲ持タス父母ヲシテ困苦憂慮ヲ重ネシムルハ其原因多クハ此淫曲ノ習慣ヨリ起ル一旦不良ノ事アリテ父母随ツテ之レヲ責ムルモ是レ既テニ晚シ否父母自ラセシメタルナリ何ノ責ムル理由カアラシ盍シソ又其本ニ反ラサル者スヤ父母タルモノ新聞紙上日々醜聞ノ多キヲ靜思熟考シテ其原因ヲ探レ理自ラ通セシ縱令ヒ其女後來其過チナキモ其

己カ好ムノ癖ヲ推シテ必亦其孫女ヲ誘引セサルナカルヘシ早晚過チアルヘキナリ淫歌淫曲ハ其レ婦道ニ滋蔓スルノ毒草ナル乎方今淫風日ヲ逐フテ盛ントナリ都會ノ大小ヲ論セス女ニシテ音曲ヲ學ハサレハ恰モ交際ノ務メヲ缺クノ思ヲ為ス其風漸ク男子ニ波及シ其業ノ農工商ヲ問ハス之レヲ學ンテ得意トス安ソ知ラン放蕩ノ基トナリ一家ノ破産ヲ催カスナルヲ其音調雅正ニシテ其謠曲馴雅ナルハ鬱情ヲ散逸シ性情ヲ調和スルノ具ニシテ實ニ好ミス

ヘシト雖是亦其度ニ過クル片ハ弊害アルヲ恐
 ル、ナリ而ルヲ況ンヤ淫歌淫曲ニ於テヲヤ又
 況ンヤ之レカ為ニ貴重ノ時日ヲ費シ尚ホ且ツ
 資財ヲ費スニ於テヲヤ到底音曲ナルモノハ婦
 女タルモノ、必シモ學ハサルヘカラサルノ學
 科ニアラス即チ不經濟ノ源ナリ世ノ主婦タル
 モノ誤リテ不經濟ノ源ヲ生スル勿レ慎ンテ不
 經濟ニ陥ラサレ注意スヘキコトナラスヤ

第廿六章 愛國

既テニ經濟ノ本原ヲ説ケリ今ヤ筆ヲ閣セント

ヲ公道ニ背カスト言フテ可ナランヤ此クノ如
 キ處女妻女ノ爲ス所貧窶之レカ基トナリ止ム
 ヲ得スシテ此ニ至ル而シテ貧窶多クハ不經濟
 ニ出ツ是レ皆恒心ヲ失ヘルナリ所謂放僻邪侈
 至ラサルナキ者ナリ此クノ如キ人民多キ片ハ
 實ニ國家ノ憂ナリ豈慨歎ニ勝ユヘケンヤ今ヤ
 一家ノ主婦タルモノ一大活眼ヲ開キ風俗ノ陋
 習ヲ避ケ每家各其經濟ニ注意シ家計ノ裕ナラ
 ンコトヲ務メ一家安クシテ而ル後一町村ニ及ヒ
 一町村安クシテ而ル後一郡區ニ及ヒ一郡區安

クシテ一品ニ及ヒ一品安クシテ一府縣ニ及ヒ一府縣安クシテ終ヒニ全國ニ及ヒ天下靡然トシテ經濟ノ風ヲ爲サハ是レ即チ國富メルナリ國富シテ而ル後兵強ク兵強クシテ而ル後國安シ經濟ハ則チ國家安寧ノ基本ナリ一大要務ニアラスヤ而シテ經濟ノ本ハ德行ニアリ西人曰ク品行ハ國家ヲ維持スルノ具ナリト豈ニ之レヲ謂フ乎國家有為ノ時ニ當リ婦女子タリ凡義務ナカルヘカラス居常其職掌タル經濟ニ務メ國家安寧ノ基本タル各一家ノ資産ヲ保護シ之

レヲ維持シテ喪失セズ子女ニ對シテ母タルノ務ヲ爲シ其教育ヲ怠慢セズ國家有用ノ器ヲ造ラハ男子ニ對シテ勝ル凡又劣ラサルノ務タリ之レヲ稱シテ女丈夫ト云フ誰レカ婦女ニシテ女丈夫タルヲ欲セサランヤ行フテ心ニ快カラサルヲアラハ勉メテ其本ニ反リ已レカ心裡ニ求ムヘシ則チ思半ニ過キン

家計原論卷之下 終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

明治十五年一月十九日板權免許
今 年四月出版

定價金四十錢

著者 大阪府平民 篠田正作

出版人 大分縣士族 中島精一

發兌書肆 中近堂
東京芝區三田四國町三番地

全

即

東京通三丁目
同 芝三島町
同 通油町
同 本町三丁目
同 兩國横山町
大坂備後町
同 北久寶寺町
同 北久太郎町
名古屋本町

丸屋善七
山中市兵衛
水野慶次郎
金港堂
出雲寺萬次郎
梅原龜七
丸善支店
前川善兵衛
丸善支店
片野東四郎

同所

一月十日

